

我が家の防災メモ

●我が家の所在地は、この防災マップの ページ です。

⇒すぐに記入しておきましょう。

世帯主の氏名	住所	TEL
--------	----	-----

我が家の避難所 <small>防災マップで確認しておきましょう。</small>	避難所TEL
---	--------

家族が離ればなれになった時の集合場所 <small>あらかじめ決めておきましょう。</small>
--

	同居家族のお名前・生年月日	続柄	血液型	職場・学校	連絡先 (携帯番号・メールアドレスなど)	備考 (持病や必要薬品など)
家族データ	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	
	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	
	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	
	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	
	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	
	T・S・H・R 年 月 日		Rh(+/-)		TEL ✉ アドレス	

※個人情報なので、非常時以外の保管に注意してください。

web版防災マップ

現在滝沢市では、インターネットで（パソコン・スマホ等で簡単に）ご覧いただける web版防災マップのシステム運営を予定しています。運営開始につきましては、市報などでお知らせいたしますので、ぜひご活用ください。



滝沢市HP

緊急連絡先

警察 …… 局番なし 110番 救急・消防 …… 局番なし 119番
 滝沢市役所 …… 019-684-2111 滝沢消防署 …… 019-687-5119
 滝沢市上下水道部 …… 019-656-6609 東北電力(全国共通) …… 0120-175-366
 盛岡ガス …… 019-653-1241 ※連絡は、慌てずにひと呼吸おいてから…

発行



〒020-0692 岩手県滝沢市中鶯飼55
TEL019-684-2111(代表)

滝沢市

防災マップ

もしもの災害時にあわてずに対応するために



掲載内容

- 1.警戒レベルを用いた避難情報 …… ①
 - 2.避難行動ガイドと避難行動判定フロー …… ②
 - 3.洪水(浸水)災害について …… ③
 - 4.土砂災害について …… ④
 - 5.地震対策について …… ⑤
 - 6.火山災害について …… ⑥
 - 7.災害情報の入手 …… ⑦
 - 8.安否確認の方法 …… ⑧
 - 9.避難所生活について …… ⑧
 - 10.我が家の防災対策 …… ⑨
 - 11.備蓄品と非常持出品チェックリスト …… ⑩
- 滝沢市の避難所・避難場所 …… ⑪
 防災マップ索引図 …… ⑫
 滝沢市防災マップ …… ⑬～
 岩手山火山防災マップ …… ⑳
- 我が家の防災メモ …… 裏ページ

常に取り出せる所に保管して、時間のある時に災害時の対処法などを読んでおき、お住まい近くの避難場所などを家族で確認しておきましょう。

災害時に冷静に対処する

もう他人事ではありません!

近年の異常気象で、台風や集中豪雨、地震、土砂災害等、数十年に一度、数百年に一度と言われる甚大な災害が毎年発生しており、過去に被害が無かった地域も被害に見舞われる事例が増えています。

これらを踏まえ、防災・減災を図るべく防災気象情報や警戒レベルの変更により、避難情報がより分かりやすく改善され、災害時の防災気象情報や緊急速報メールなども身近に活用されるようになりました。

この防災マップは、土砂災害警戒区域のほか、約1,000年に一度の大雨を想定した洪水浸水想定区域も表記しています。さらに火山防災マップや様々な防災情報を掲載していますので、ご自身のお住まいの地域の潜在的な危険情報や避難場所などを日頃から確認しておきましょう。

また、非常時にどのような行動をするかなどもご家族で話し合っておきましょう。



ご家族で避難場所などの確認を!

1. 警戒レベルを用いた避難情報

国は、令和3年5月に「避難情報に関するガイドライン」を改訂し、水害・土砂災害について市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を5段階に整理しました。

避難情報等 (警戒レベル)				河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保! 警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。また、警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはけません! 災害の切迫状況等により、可能な範囲で市町村から発令され、必ずしも発令される情報ではないからです。	緊急安全確保	5相当	大雨特別警報 氾濫発生情報
—〈警戒レベル4までに必ず避難〉—					
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難! 避難レベル4避難指示は、立ち退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。	避難指示	4相当	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難! 「高齢者等」は、障がいのある人や避難を支援する人も含まれています。さらに、高齢者以外の人も必要に応じ、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	高齢者等避難	3相当	大雨警報 (土砂災害) ^{*1} 洪水警報 氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2相当	氾濫注意情報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害の心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)	1	

*1: 夜間～翌日早朝に大雨警報 (土砂災害) に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等は危険な場所からの避難が必要とされる警戒レベル3に相当します。
●市町村長は、河川や雨の情報 (警戒レベル情報相当) のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等 (警戒レベル) の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても危険を感じたら早めに避難行動をとってください。
「自分で判断する」ことが大切です。

警戒レベル5はすぐに命を守る行動を!
注意/警戒レベル5は、必ずしも発令されるものではありません。
警戒レベル4と警戒レベル3は
地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

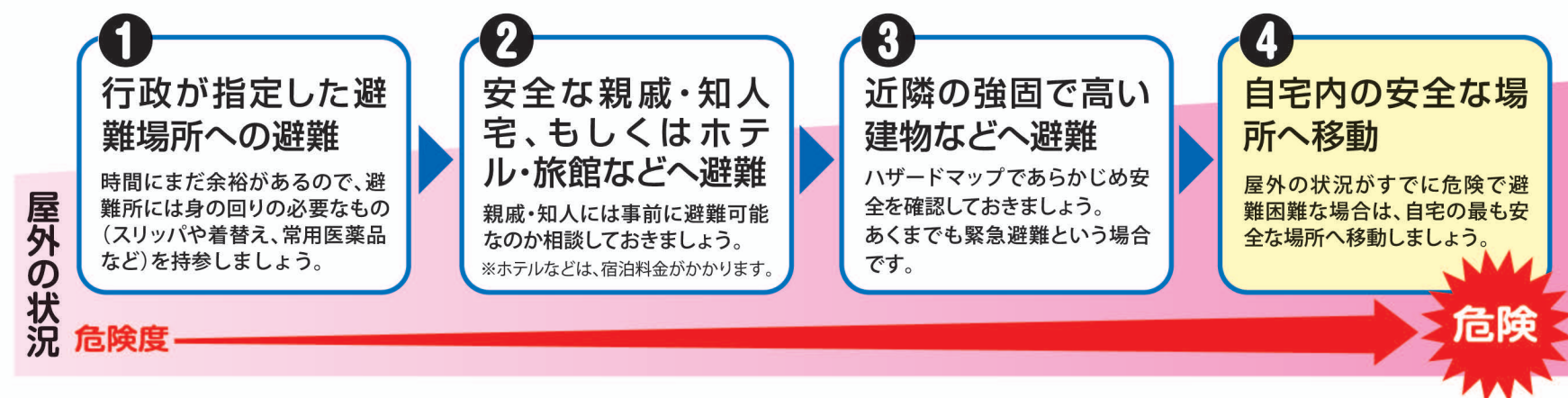
2. 避難行動ガイドと避難行動判定フロー

避難行動ガイド

学校や公民館など指定された「避難所」に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を避けることで、既に周辺で災害が発生していたり、避難所までの移動がかって命に危険を及ぼしかねないと判断した場合には、「近隣の安全な場所」や自宅内での「屋内安全確保」などを行います。

基本的な4つの避難行動

状況に合った臨機応変な行動が大切です。



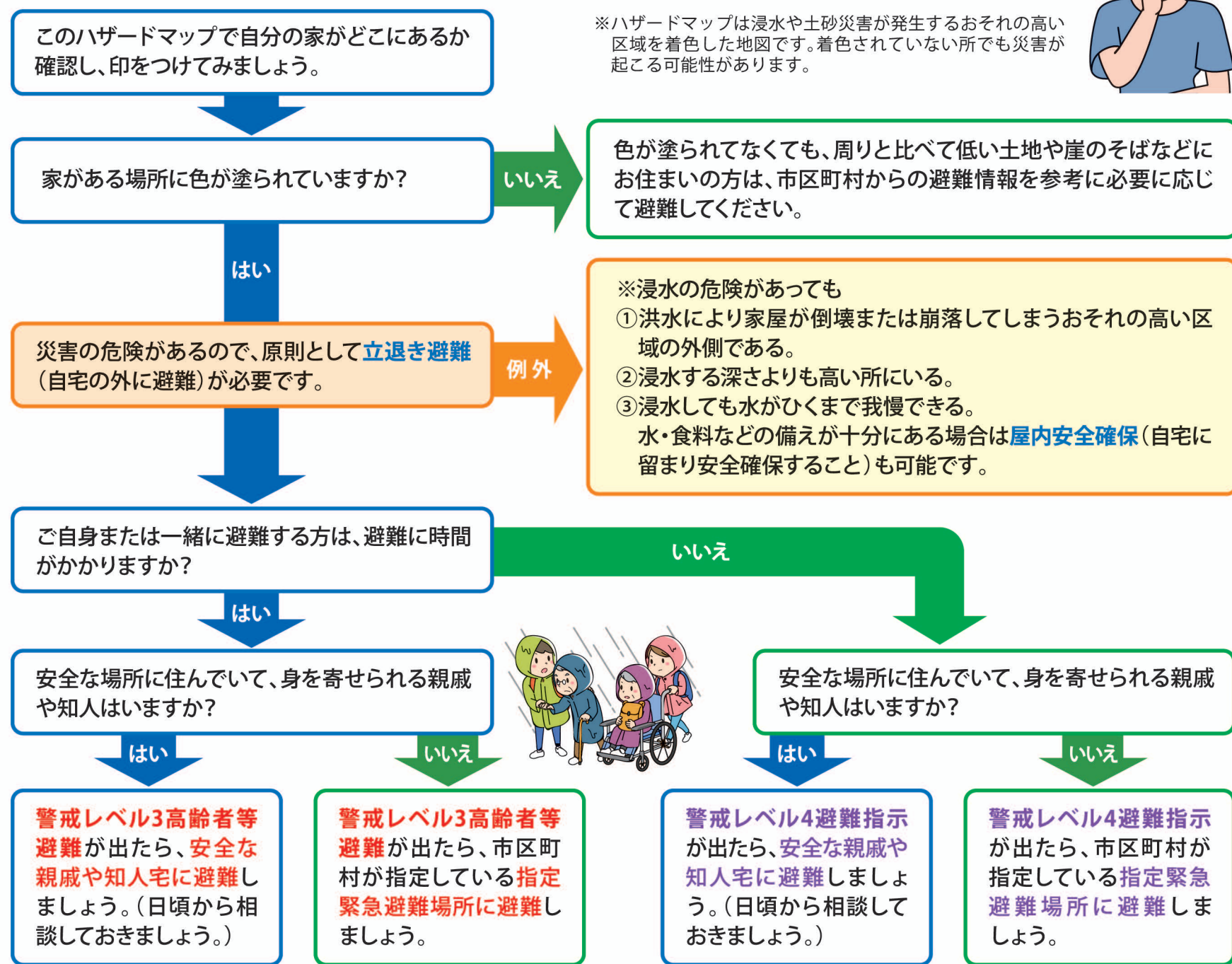
避難行動判定フロー

「自分の命は自分が守る」意識を持ち、平時に自宅の災害リスクと自らとるべき行動を確認しておきましょう。

行動の確認を!

あなたがとるべき避難行動は?

⇒必ず取組みましょう!



※資料: 内閣府「避難ガイドライン」

3. 洪水(浸水)災害について

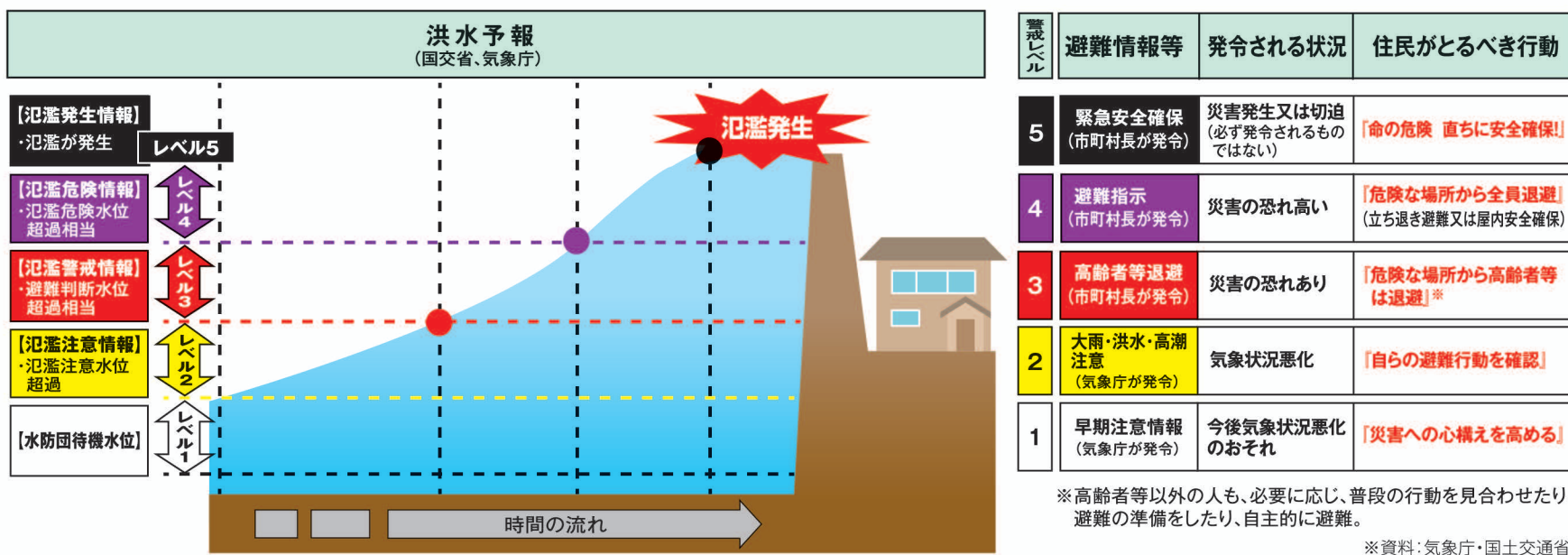
毎年起きている洪水災害や土砂災害の主な原因は、雨によるものです。近年の異常気象の影響で、今まで被害の無かった地域も台風が通過したり、大雨で河川が氾濫したりして、甚大な被害を受けています。気象情報やお住まいの地域の防災情報などに注意して、早めの対応をしましょう。

雨の強さと降り方

やや強い雨 1時間に 10~20mmの雨	強い雨 1時間に 20~30mmの雨	激しい雨 1時間に 30~50mmの雨	非常に激しい雨 1時間に 50~80mmの雨	猛烈な雨 1時間に 80mm以上の雨
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら、警戒が必要です。	どしゃ降りの雨。傘をさしてもぬれてしまうほどの雨です。側溝があふれ、小規模のがけ崩れなどの心配もあります。	バケツをひっくり返したように降る雨です。小規模の土砂災害や、道路が川のようになる場所もあります。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽく、視界が悪くなります。災害発生の可能性が非常に高まります。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じるような雨です。大規模な災害が発生する可能性が高く、厳重な警戒が必要です。

河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。これをもとに自治体が避難情報を発令します。

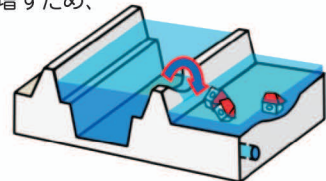


氾濫の種類

雨量の増加により起こる氾濫には、河川の氾濫や堤防決壊による「外水氾濫」と市街の排水が間に合わず、マンホールや道路側溝などからあふれ出す「内水氾濫」があります。

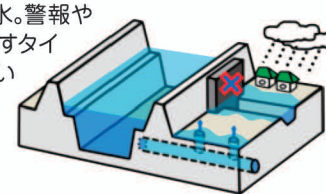
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、水かさが増して堤防を超える、あるいは堤防が決壊して川の水が外にあふれて起きる洪水です。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要です。



内水氾濫

市街地に降った雨や、周囲から流れて来た水が川に流れきれずに、下水などに溜まって逆流して起きる洪水。警報や避難指示を出すタイミングが難しいため、注意が必要です。



避難行動のポイントと危険箇所

浸水避難が始まる前に早めの避難

氾濫水は流れが早く、大人の膝程度の深さでも歩行が困難になります。浸水してからの避難は危険。気象情報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難をしましょう。

状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで行けない場合は、自宅の安全な高い階に避難しましょう。また、避難している途中でも、危険を感じたら近くの頑丈な建物や、近づくだけ高い階に緊急避難しましょう。

やむなく水の中を歩く際は

素足、サンダル、長靴は厳禁。水中で脱げづらい細靴などを履きましょう。また、氾濫水は濁っているため、長い棒や傘などを杖代わりにして、マンホールや障害物に注意しながら歩きましょう。

地下室や地下は危険

地下にいると地上の状況が把握しづらく、避難経路が限定されます。また、地上が冠水すると一気に水が流れ込んでくる場合もあります。停電になる可能性も高く、脱出が困難になります。

川や用水路には近づかない

注意報発令中は、川や用水路などの水辺には近づかない。河川状況などは、自治体のライブカメラなどで確認できます。また、避難の途中でも増水した川を近づくのは避けるようにしましょう。

アンダーパスは危険

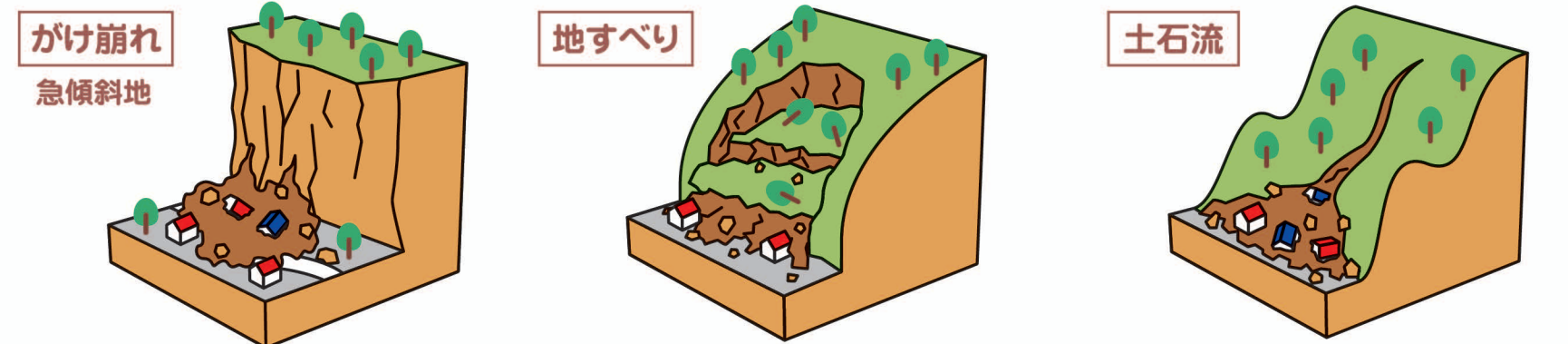
道路や路線の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水の際に真っ先に冠水します。あらかじめ場所を把握しておき、迂回路を想定しておきましょう。

4. 土砂災害について

勾配の急な山や崖の多い日本は、土砂災害が発生しやすい地形的な特徴をもっています。身を守るためには、土砂災害に関する正しい知識と、お住まいの地域の災害リスクについて知っておくことが大切です。

土砂災害の種類

土砂災害は突発的に発生し、すさまじい破壊力で襲ってきます。



がけ崩れは、急な斜面が突然崩れ落ちる災害で、特に傾きが30度以上のがけはリスクが高いので要注意です。

地すべりは、割合ゆるい傾きの斜面で、地面が大きなたまりのまま、ゆっくりすべりますが、突然一気に数メートル動くこともあります。

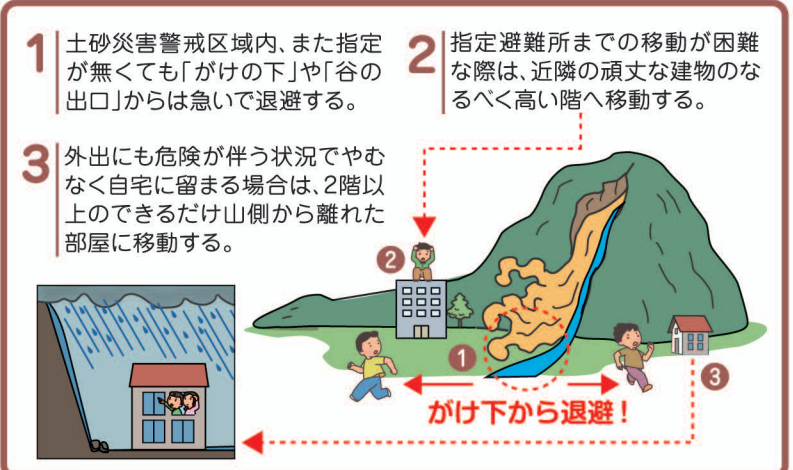
土石流は、大雨などで山がくずれ、くずれた土砂が水と混じってどろどろになり、通りにある岩や木を巻き込んで津波のように流れてくるものです。

特徴	前ぶれ	特徴	前ぶれ	特徴	前ぶれ
がけ崩れは、大雨や長雨、雪解け水が、地面に浸み込んだことが原因で起きたり、地震の揺れによって起きます。前ぶれがあまりなく、突然、大量に崩れる特徴があります。危ないと思ったらできるだけ早く避難することが大切です。	● 土砂が落ちてくる ● 小石が落ちてくる ● 樹木が傾く・倒れる ● 樹木の裂ける音や石のぶつかる音など様々な異音が聞こえる	地すべりは、何層にも積み重なった地層の水を通しにくい粘土質などの層に浸み込んだ雨水や雪解け水が、そこから上の地面を浮か上げ、すべりだすのが主な原因です。地すべりは、広範囲で起きるため、家や道路、鉄道などが一度に大きな被害を受けます。	● 地面のひび割れや陥没 ● 井戸や沢の水が濁る ● 樹木の裂ける音や石のぶつかる音など様々な異音が聞こえる ● 土がゆるむ音がする	土石流は、大きな石や岩を先頭に、街中を走る自動車と同じくらいのスピード(20~40km/h)で、家や田畑を押しつぶしながら流れます。山のふもとや扇状地や、谷の出口では、特に注意が必要です。	● 山鳴りがする ● 腐った土の匂いがする ● 川の水位が下がる ● 川の水位が上がる

※上記の前兆現象はほんの一例であり、必ず起こるというものではありません。異常を感じたらすぐに避難行動を始める。

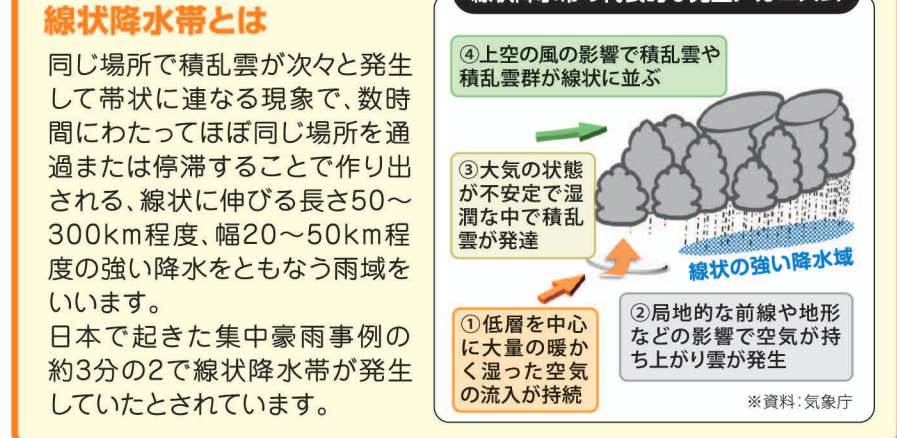
避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。警戒区域内においては、避難の猶予がほとんど無いものと考え、前兆現象の有無にかかわらず、「様子がおかしい」と感じたらすぐに避難行動をとってください。



線状降水帯による洪水・土砂災害

近年洪水や土砂災害を起こしている原因として、「線状降水帯」という言葉が盛んに使われています。大災害を引き起こす事も多く、天気予報でも発生が伝えられるようになりました。



▶ 岩手県HP内の「新たな「土砂災害が発生するおそれのある箇所」の公表について(令和4年9月30日)」をご覧ください。
<https://www.pref.iwate.jp/kendozokuri/kasensabou/doshasaigai/1059600/index.html>

5. 地震対策について

地震は、ほとんどの場合突然発生します。急な対応を迫られ混乱しがちです。まずは自分と家族の身を最優先に守りましょう。ここでは避難行動の一例を紹介します。そのときの状況によって判断しましょう。

地震発生時の時間別行動マニュアル



地震発生 最初の大きな揺れは数分間程度です。慌てず行動！
まずは安全確保

まず 自分や家族の身を守る
机の下など、物が落ちてこない、倒れてこない場所に身を隠し、座布団やクッションなどで頭を覆い安全を確保しましょう。



大揺れがおさまったら 家族の無事を確認 火災の発生を防ぐ
大きな地震が起きた際には窓ガラスや食器が割れてケガをする恐れがあります。家内を裸足では歩かない(必ずスリッパや靴を履く)ようにして、以下の確認をする。



- 火元の確認(消火作業はないか)。
- ガス栓を閉める。
- ブレーカーを切る。
- 室内の家族の安否確認。
- 避難可能な出口の確保

10分程度 火災等発生時の緊急対応
→大声を出す。笛やブザーを鳴らす →何かをたたいて注意を引く
→避難(階段は注意する) →救助活動、消火活動



数時間 情報入手 家の周囲の状況確認 隣近所の安否確認
地震は夜中に起こることもあります。うかつに外に出ないで、テレビ・ラジオ・スマホなどで地震の情報を入手しましょう。日中で外に出られる状況なら、家の周囲の状況を確認し、隣近所の安否確認や救助などに協力してください。



数日 数日間は自分でしのぐ。
大きな地震発生後数日間は、電気やガス、水道に加えて物流が途絶え、食料の供給も途絶えがちです。指定避難所への避難にかかわらず、日頃から非常用品(食料や医薬品等)の準備をして、数日間は自分でしのげるようにしておきましょう。



屋内にいた場合の避難行動

集合住宅

- ドアや窓を開け、避難口を見つける。
- エレベーターは使わず、階段を利用する。
- 炎と煙に巻き込まれないよう注意する。

デパート・スーパー

- 頭の保護(落下物から身を守る)。
- ガラス(ショウウィンドウ)から遠ざかる。
- 柱や窓わきに身を寄せる。
- 非常口を見つける。

劇場・ホール

- 頭の保護(落下物から身を守る)。
- 座席の間に身を隠す。
- 係員の指示に従う。
- 非常口を見つける。

非常口 EXIT

屋外にいた場合の避難行動

路上

- ビル街はガラスなどの落下物に注意し、頭を保護する。
- 何も無い広場に避難する。
- ブロック塀(石塀)、自動販売機に近づかない。
- 電柱や垂れ下がった電線は危険、注意する。

車を運転中

- 地震を感じたらスピードダウンして道路の左側に停車し、ハザードランプ等で後方に知らせる。
- エンジンを停止する。
- 情報把握はラジオで可能。
- キーは付けたまま貴重品を持ち徒歩で避難する。

電車などの車内

- 急停車時にはしっかりと吊革・手摺を掴む。
- 非常事態による脱出は、係員の指示に従う。
- 路線の反対路線は危険

6. 火山災害について

岩手県のシンボルでもあり、私たちに身近な岩手山は、活火山として噴火の可能性のある山でもあります。滝沢市や岩手県、気象庁などからの情報に注意して、もしもの時には避難等の対応をとってください。

噴火による現象

噴石
火口から噴き上げられた高温の岩片は、火口の周辺に落下します。噴石に当たると、生物は死傷し、建物は破壊されます。また、山林の火災にも発展しかねません。

土石流
土石流は、火山灰が降り積もった箇所や、降雨により発生します。火山灰がたくさん堆積した箇所の下流で発生する危険性があります。特に沢沿いや低い場所は危険です。

溶岩流
溶岩流が到達すると、田畑・家屋などの財産は焼かれ、また厚い岩石の下に埋没されてしまいます。

火山灰などの降下
火口から噴き上げられた火山灰・スコリア(黒い軽石のようなもの)は、上空の風によって運ばれます。大規模な噴火で上空が噴煙に覆われると、昼間でも夕暮れのように暗くなります。火山灰を吸い込むと、人間の健康にも影響を及ぼします。火山灰が降り積もった地域では、スリップによる事故が多発したり、農作物への影響など広範囲に被害が発生します。また多量に火山灰が堆積すると、その重みで建物が倒壊する恐れがあります。雨が降ると水を吸って、さらに重くなります。

火砕サージ(爆風)
火砕サージは、土砂混じりの爆風で、小高い丘の上にも這い上がってきます。高速で流走し、樹木や家屋をなぎ倒す危険な現象です。

火砕流
火砕流は、高温の噴出物が沢沿いなどを高速で流れ下る現象です。低温で沢が浅くなると広い範囲に広がることもあります。高温で破壊力が大きいため、すべての建物、動植物に壊滅的被害を与えるきわめて危険な現象です。

岩屑なだれ(山くずれ)
噴火や地震が引き金となって、山体が大規模に崩壊して発生する現象です。発生の可能性が低いので、気象庁の火山防災マップには過去の事例を掲載しています。

融雪による火山泥流
積雪時に火砕流が発生すると、雪が融けて、火山泥流が発生することがあります。火山泥流は、流下途中の雪や土砂を取り込み、下流側に広範囲に氾濫します。

警報のレベルと内容 避難警報が発令されたら、滝沢市の指示に従って行動してください。

種別	名称	対象範囲	噴火警戒レベルとキーワード	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。	
			レベル4 高齢者等避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難、住民の避難の準備等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	レベル3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)。状況に応じて高齢者等の要配慮者の避難準備等。	登山禁止・入山規制等、危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
			レベル2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活。(状況に応じて火山活動に関する情報収集、避難手順の確認、防災訓練への参加等)。	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。	

※資料:気象庁HP

避難行動のポイント

大きな噴石
大きな噴石の多くは、火口から数km程度以内に落下するため、火口から十分に離れた箇所では安心です。岩手山に近づかないようにしてください。

溶岩流
溶岩流は、一般に速度が遅く、徒歩でも逃げるのが可能です。落ちていて到達範囲の外に避難してください。

火砕流・火砕サージ
火砕流・火砕サージは、高速(時速100km以上)で流れ下るため、発生してからの避難はほとんど困難です。噴火の危険性が高い状況になったら、火山情報に充分注意し、速やかに到達範囲の外に避難してください。万が一、避難が遅れた場合は、少しでも高台の物陰に隠れてください。

※資料:岩手県HP「岩手山火山防災マップ」

7. 災害情報の入手

滝沢市では、市のホームページや防災無線、広報車、緊急速報メール(エリアメール)などを通して災害情報を発信しています。その他、テレビ、ラジオ、スマホ等で気象情報や災害情報を入手することができますのでご利用ください。

防災行政無線

市役所と各地区公民館などに設置した、屋外スピーカー(屋外拡声子局)から放送を流します。また、Jアラート(全国瞬時警報システム)と連携して、災害等の緊急情報を自動的に放送します。



全国瞬時警報システム(Jアラート)

Jアラートとは

緊急地震速報、大津波警報、弾道ミサイル情報等の緊急情報を、国から人工衛星および地上回線を用いて送信し、市区町村の防災行政無線や携帯メール、コミュニティFM等を自動起動させ、住民まで瞬時に伝達するシステムです。

Jアラートで伝達される情報

自然災害に関する情報 ▶ 緊急地震速報など
国民保護に関する情報 ▶ 弾道ミサイル情報など

どこから放送が流れるの?

防災行政無線・携帯メール・コミュニティFM・CATV・MCA無線など

※各市区町村により異なります。

放送例

緊急地震速報

警報音: ビロン ビロン
「緊急地震速報。大地震です。大地震です。」

大津波警報

警報音: ウー ウー ウー
「大津波警報。大津波警報。ただちに高台に避難してください。」

弾道ミサイル情報

警報音: ブー
「ミサイル発射。ミサイル発射。ミサイルが発射された模様です。建物の中または地下に避難してください。」

※メッセージは状況に応じて変更の可能性があります。

主な情報の入手先

QRコード ▶ スマートフォンやタブレットなどで読み取れます。

Android のカメラまたは Google レンズで撮影
iPhone のカメラで撮影

滝沢市 たきざわライフガイド安全安心

災害時の避難所、避難行動の5つのポイント、滝沢市防災マップなどの情報が見られます。

https://www.city.takizawa.iwate.jp/life/taki_kurashi/crisismanagement.html

滝沢市 安全安心 検索



気象庁 地震情報

地震速報や被害状況などを詳しく配信しています。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/index.html>

気象庁 地震情報 検索



滝沢市 河川監視カメラ

滝沢市内の河川状況が見られます。

<https://www.city.takizawa.iwate.jp/kasenkansi>

滝沢市 河川監視カメラ 検索



気象庁 キキクル

大雨・洪水警報の危険度分布を配信しています。

<http://www.jma.go.jp/bosai/risk/>

気象庁 キキクル 検索



気象庁 台風進路情報(気象警報・注意報)

台風の進路予想などを詳しく配信しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html>

気象庁 台風情報 検索



岩手県 河川情報システム

岩手県内の河川情報が確認できます。

<http://kasen.pref.iwate.jp/iwate/servlet/Gamen30Servlet>

岩手県 河川情報 検索



一般財団法人 河川情報センター 川の水位情報

(雫石川、諸葛川、木賊川)

<https://k.river.go.jp/>

川の水位情報 検索



国土交通省 川の防災情報

(雫石川、諸葛川、木賊川)

<https://www.river.go.jp/>

国土交通省 川の防災 検索



テレビ(地上デジタル) dボタン

ご家庭のテレビで確認できます。リモコンのdボタンを押すと、データ放送画面が表示されます。

緊急速報メール

NTT ドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの携帯電話に送信されます。

※情報は発信時点で市内にいる人に配信されます。また、機種により、設定が必要なものや受信できないものがあります。



8. 安否確認の方法

地震や河川の氾濫などの災害が起きると、被災地への安否確認の電話が殺到して電話がつながりにくくなることがあります。こんな時は、「災害用伝言ダイヤル171」や「災害用伝言板」を利用しましょう。

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方*

固定電話・携帯電話・スマートフォン対応

171 をダイヤルする

録音の場合 1 を押す

再生の場合 2 を押す

ガイダンスにしたがってメッセージを録音または再生

【災害用伝言ダイヤル(171)の注意】

登録できる電話番号(被災地電話番号)…災害により電話がつながりにくくなっている地域の電話番号および携帯電話・PHS・IP電話の電話番号。なお、電話番号は市外局番から入力していただく必要があります。

災害用伝言板(web171)の使い方

携帯電話(ネット通信出来るもの)・スマートフォン・PC対応

web171 インターネットにアクセス

あなたの電話番号を入力し 登録 か 確認 を選択

登録の場合 案内にしたがって伝言を文字登録

確認の場合 表示された情報を確認



登録内容を確認できます!

J-anpi

<https://anpi.jp/>

*一部の電話からはご利用できません。他事業者の電話、携帯電話やPHSからの利用については、契約している通信会社にご確認ください。
*NTT東日本・NTT西日本の電話から伝言の録音・再生をする場合の通話料は無料です。他事業者の電話、携帯電話やPHSから発信する場合、通話料については各電話会社にお問い合わせください。<わくは、URL(NTT東日本) <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/co.jp/saigai/voice171/>

9. 避難所生活について

突然の災害によって急な避難所生活をおくらなければならない場合、慣れない場所での集団生活になります。様々な点で不自由な生活にはなりますが、希望を捨てずに皆で力を合わせ、出来るだけ快適に過ごせるようにしましょう。

初期の避難生活

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。小・中学校と避難所となる施設などには市の防災倉庫があり、発電機や投光器、簡易トイレなどの備蓄品が配備されています。救援物資は、発災直後は届きません。市の備蓄物資のほか、各自で食料や防寒着、ミルクやオムツ、毛布などを持ち寄るなどの助け合いも重要です。

物資の助け合い



長期の避難生活

町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。

役割分担



健康や衛生の管理に気を付けましょう

- ・避難所ではこれまでの生活と違い環境が変わりプライバシーも取れない状況があります。自分自身で体調管理に気を付けましょう。
- ・エコノミークラス症候群を予防するために、適度な運動と水分補給をしましょう。
- ・熱中症予防のため、水分補給や衣服の工夫(通気性のよいもの等)をしましょう。
- ・食中毒の予防のため、手洗い、消毒、賞味・消費期限の確認をしましょう。

体調管理

衛生管理



ペット動物の注意点

滝沢市では、ペットの同行避難については、可能な範囲で対応します。避難所では、動物の世話やフードの確保、飼育場所の管理は飼い主の責任のもとに行うこととなります。そのため、飼い主はケージなどの中に入ることに慣らすなど、しつけや健康管理を行うとともに、ペット用品の備蓄やワクチンを接種するなど、日頃から備えておきましょう。

周囲の人に気配りを



10. 我が家の防災対策

地震や台風は止める事ができません。しかし日頃から防災・減災を意識して、家の内外の整備をしておくことで被害をおさえることができます。出来る範囲で、いざという時のための対策をしておきましょう。

家の外の防災対策 揺れ・風・水に用心する。

窓ガラス

強風による飛散物での破損が多くあります。外側を板で覆うことや、内側に飛散防止フィルムを貼ることで被害を軽減できます。

ベランダ

風の強いときは、物干し竿や鉢植えなどを室内に入れましょう。手摺などの点検も。

ブロック塀・門柱

地震時の倒壊の多い箇所です。しっかりと基礎工事や控壁の設置を。また、ひび割れや鉄筋の錆にも注意。

非常時の出口の確保

非常時にすぐに逃げられるよう、出入り口の周辺には邪魔な物は置かないように。

屋根

地震による屋根瓦の破損や強風に吹き飛ばされる事例があります。出来れば防災屋根への改修をしましょう。煙突やテレビアンテナの固定部分も点検しましょう。

雨どい

雨どいに落ち葉やゴミが詰まっていないか。破損や傾きなどがないか等を確認する。

プロパンガス

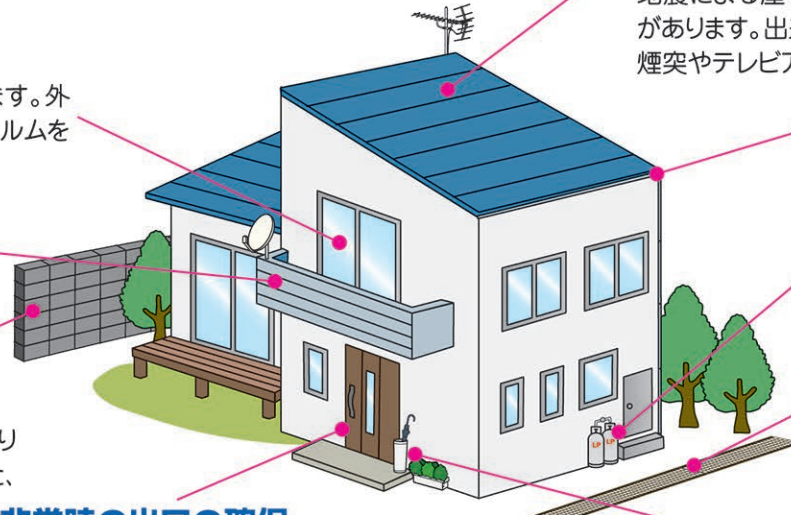
ガスボンベは、しっかり固定されているか。転倒防止は、チェーンなどで固定をする。

側溝

側溝が詰まると、冠水や浸水の原因になります。日頃から定期的に清掃をしましょう。

鉢植えや傘立てなど

風に飛ばされそうな物は、事前に室内に入れましょう。



風の強さと吹き方(建造物の被害の目安) 台風や竜巻などの強風による被害が増えています。

やや強い風		強い風		非常に強い風		猛烈な風	
平均風速10~15m/s 時速約50km	平均風速15~20m/s 時速約50~70km	平均風速20~25m/s 時速約70~90km	平均風速25~30m/s 時速約90~110km	平均風速30~35m/s 時速約110~125km	平均風速35~40m/s 時速約125~140km	平均風速40m/s~ 時速約140km~	
樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	屋根瓦・屋根材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	屋根瓦・屋根材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。	固定の不十分な金属屋根の骨材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。	住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。		
最大風速 20m/s	最大風速 30m/s	最大風速 40m/s	最大風速 50m/s	最大風速 60m/s			※最大風速はおおよその値です。 ※資料・イラスト提供:気象庁

家の中の防災対策 日頃から心がける。



玄関や通路に物を置かない

玄関や通路に物を置くと、避難時に邪魔になったり、逃げ道を塞いでしまう可能性があります。玄関や通路は、散らかさないようにしましょう。



窓ガラスにテープを貼る

台風などによる強風の注意があるときは、飛散物で窓ガラスが飛散するのを防ぐためにテープなどを貼りましょう。

寝室には倒れやすい家具を置かない

就寝中の地震では、倒れる家具を避けることができません。出来るだけ置かないか、倒れづらい低い家具にしましょう。

近くに防災品を置く

就寝中の非常時などに、すぐに対応出来るように、寝る場所から手の届く所に、懐中電灯やスリッパなどを置いておきましょう。

家具の転倒やガラス飛散防止の対策を

地震による家具の転倒を予防する対策をしておきましょう。様々な種類の転倒防止グッズが販売されています。また、ガラスの飛散防止の対策も。

※お住まいの状況や家族構成などにより、各家庭で工夫しましょう。

11. 備蓄品と非常持出品チェックリスト

災害直後から混乱が収まるまでの期間は、災害状況によって異なります。その間は、自らで対処しなければなりません。自給自足するために必要なのが「備蓄品」です。また、避難時に持ち出すのが、「非常持出品」です。ぜひ準備しておきましょう。

備蓄品 最低3日分、出来れば1週間分を用意しましょう。



必需品

- 飲料水(1人1日3ℓ×3日分×家族数)
- 保存可能な食料(7日~10日分程度)
- カセットコンロ(予備ボンベ)
- 紙皿・紙コップ・割り箸
- タオル・毛布
- ランタン・懐中電灯(予備電池)

必要な物・あれば便利な物

- 軍手
- スリッパ
- ラップ・アルミホイル
- トイレットペーパー・ティッシュ
- 45リットルゴミ袋
- ブルーシート
- 使い捨てカイロ
- 簡易トイレまたはポリ袋
- ほうき・ちり取り
- スコップ・バール・おのこざり
- ウォータータンク・荷物運搬カート
- ハンディろ過機(水の清浄)

ペットがいる場合

- ペットフード
- その他ペット用品

家族構成によって必要になるもの

- 母子健康手帳
- 粉ミルク・ほ乳瓶・離乳食
- おむつ・おしりふき
- 生理用品
- 障がい者手帳・介護用品

非常持出品 避難時にリュックに入れて持ち出す物です。



- 飲料水(500ml程度 家族各人1本ずつ)
- 携帯ラジオ
- 健康保険証・免許証
- 筆記用具・メモ帳・笛
- トイレットペーパー・ティッシュ・ウェットティッシュ
- 携行食(ビスケット、チョコレート、バランス栄養食品など)
- 懐中電灯・予備電池

家族構成によって必要になるもの

- 衛生用品・生理用品
- おむつ・離乳食・乳児用ミルク

- ビニール袋・ポリ袋
- 防寒具・雨具・携帯カイロ
- 応急医療品
- 携帯電話・充電器・バッテリー
- タオル・下着・靴下
- 現金(小銭)・通帳・印鑑
- 多目的ナイフ

自分に必要な物

- 入れ歯・コンタクトレンズ・眼鏡
- 常備薬・お薬手帳

避難時に身につけるもの

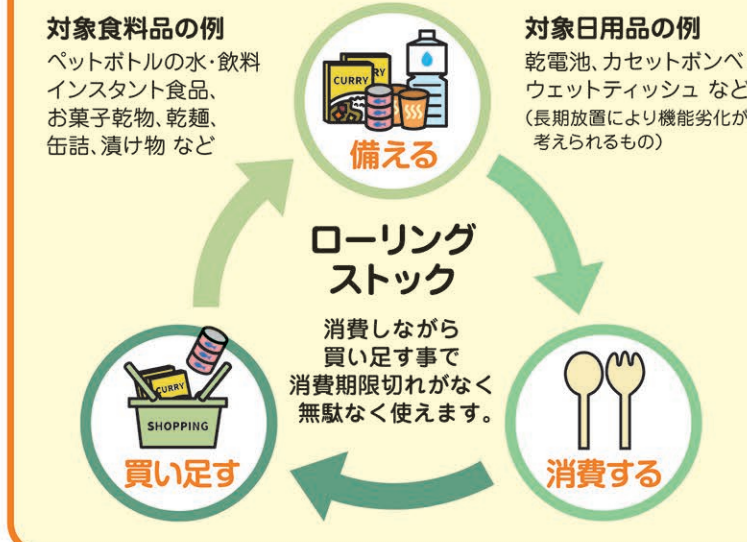
- ヘルメットなど頭を守るもの
- 履き慣れた底の厚い靴
- 軍手
- マスク
- 携帯電話・スマートフォン

避難所で便利なもの 自宅に取りに戻れる場合

- ・毛布・寝袋・座布団・ライター類・缶切り・多目的ナイフ
- ・ガムテープ・空の段ボール箱・筆記具・メモ帳
- ・マスク・帽子・着替え・大型タオル・スリッパ
- ・洗面用品・マウスウォッシュ
- ・応急医薬品(ばんそうこう・きず薬・胃腸薬・風邪薬・目薬・サプリメントなど)
- ・アイマスク・耳栓・補聴器・入れ歯用洗浄剤
- ・ハンディろ過機(水の清浄)

ローリングストックについて

非常用として備蓄している食料品や乾電池などを、日頃から少しずつ使用し買い足していくことで、常に一定の量を自宅へストックしておくことをローリングストックと言います。



滝沢市の避難所・避難場所

避難所・避難場所

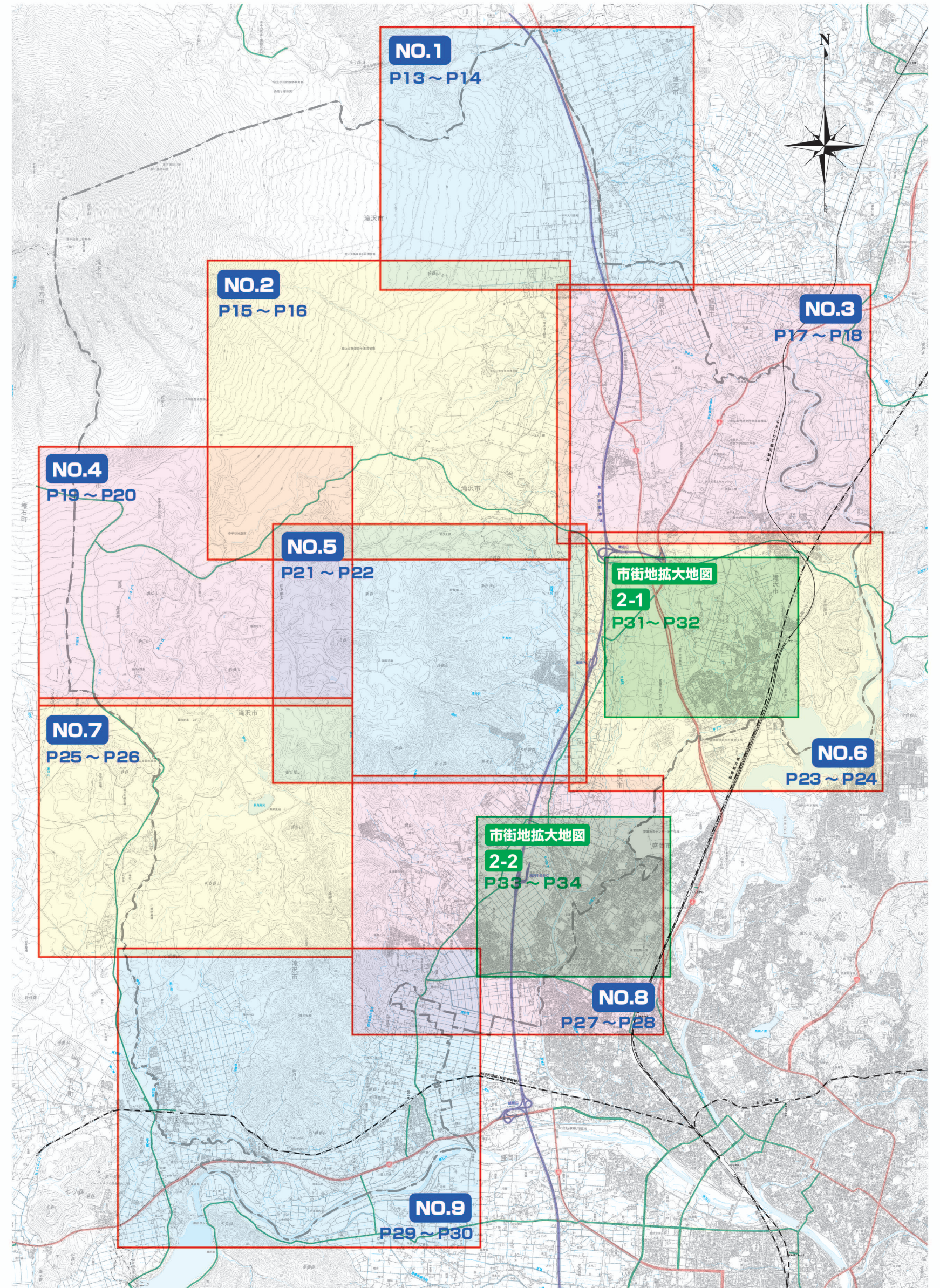
番号	地区名	施設名	住所	電話番号	指定避難場所 / 対象とする災害の種類							掲載ページ
					洪水	崖崩れ 土石流 地滑り	地震	大規模 な火事	内水 氾濫	火山 現象		
1	小岩井	小岩井地区コミュニティセンター	大釜風林 18-7	019-686-2614	○	○	○	○	○		29	
2	大釜	滝沢勤労者体育センター	大釜高森 58-5	019-687-1466	○	○	○	○	○		30	
3	大釜	大釜地区コミュニティセンター	大釜外館 116-9	019-687-4318	○	○	○	○	○		30	
4	篠木	篠木小学校	篠木中屋敷 60	019-657-2064	○	○	○	○	○	○	30	
5	大沢	大沢集落センター	大沢堰合 20-3	019-687-4306	○	○	○	○	○		27 30	
6	鶺鴒	滝沢南中学校	鶺鴒滝向 11-1	019-678-2021	○	○	○	○	○	○	27 30	
7	鶺鴒	滝沢総合公園体育館	鶺鴒御庭田 1-1	019-687-3311	○	○	○	○	○	○	27 30	
8	鶺鴒	鶺鴒小学校	鶺鴒洞畑 87-1	019-687-2004	○	○	○	○	○	○	27	
9	元村	盛岡市立月が丘小学校	滝沢穴口 328	019-684-3744	○	○	○	○	○		28	
10	姥屋敷	姥屋敷小中学校	鶺鴒安達 117-19	019-680-2401	○	○	○	○	○		26	
11	元村	滝沢小学校	外山 86-19	019-687-2314	○	○	○	○	○	○	28 33	
12	元村	滝沢中学校	外山 86-20	019-684-1771	○	○	○	○	○	○	28 33	
13	元村	盛岡市立北陵中学校	穴口 419	019-684-3323	○	○	○	○	○		28 34	
14	元村	滝沢ふるさと交流館	土沢 265-3	019-687-5511		○	○	○			28 33	
15	川前	滝沢第二小学校	巣子 156-8	019-688-4002	○	○	○	○	○		24 32	
16	川前	滝沢第二中学校	巣子 152-91	019-688-4907	○	○	○	○	○	○	18 24	
17	川前	葉の木沢山活動センター	葉の木沢山 460-1	019-688-2032	○	○	○	○	○		24 32	
18	川前	滝沢東小学校	狼久保 795-1	019-688-6602	○	○	○	○	○	○	24	
19	川前	滝沢市東部体育館	大崎 94-7	019-688-4872	○	○	○	○	○	○	18	
20	柳沢	滝沢市北部コミュニティセンター	巣子 148	019-688-5111	○	○	○	○	○		16	
21	柳沢	柳沢小中学校	柳沢 1171	019-688-2221	○		○	○	○		16	
22	柳沢	柳沢地区コミュニティセンター	大石渡 1522-6	019-688-6660	○	○	○	○	○		16	
23	一本木	一本木小学校	柳原 22	019-688-4253	○	○	○	○	○		17	
24	一本木	一本木中学校	巣子 148	019-688-4634	○	○	○	○	○		16 17	
25	一本木	一本木地区コミュニティセンター	留が森 128-2	なし	○	○	○	○	○		17	
26	鶺鴒	滝沢市交流拠点複合施設(ビックルーフ滝沢)	下鶺鴒 1-15	019-656-7811	○	○	○	○	○	○	27 30	
27	元村	盛岡市立城北小学校	盛岡市みたけ三丁目 12-1	019-641-0187					○		28	
28	鶺鴒	滝沢中央小学校	室小路 275	019-684-2282	○	○	○	○	○		28	

洪水・浸水想定区域の対象自治会	小岩井、大釜南、鶺鴒南、室小路、元村南、国分、元村中央、南牧野林、牧野林中央、法誓寺、元村東、元村西、元村北、あすみ野、巣子、長根、柳沢
土砂災害警戒区域の対象自治会	小岩井、大釜上、大釜南、篠木、大沢、上鶺鴒、姥屋敷、元村中央、元村西、川前、柳沢

避難が必要になった場合はなるべく明るいうちに避難しましょう。安全に避難するために行政の指示にしたがって落ち着いて行動しましょう。



防災マップ索引図 お住まいの区画ページをご覧ください。










防災マップ

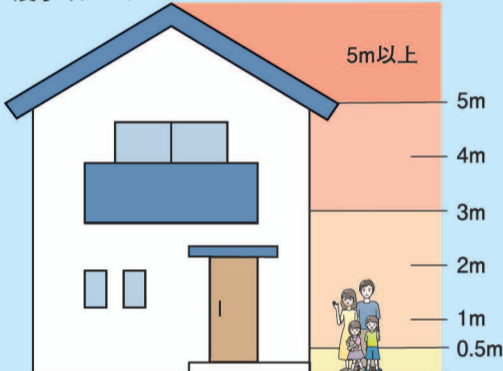
No.1

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ









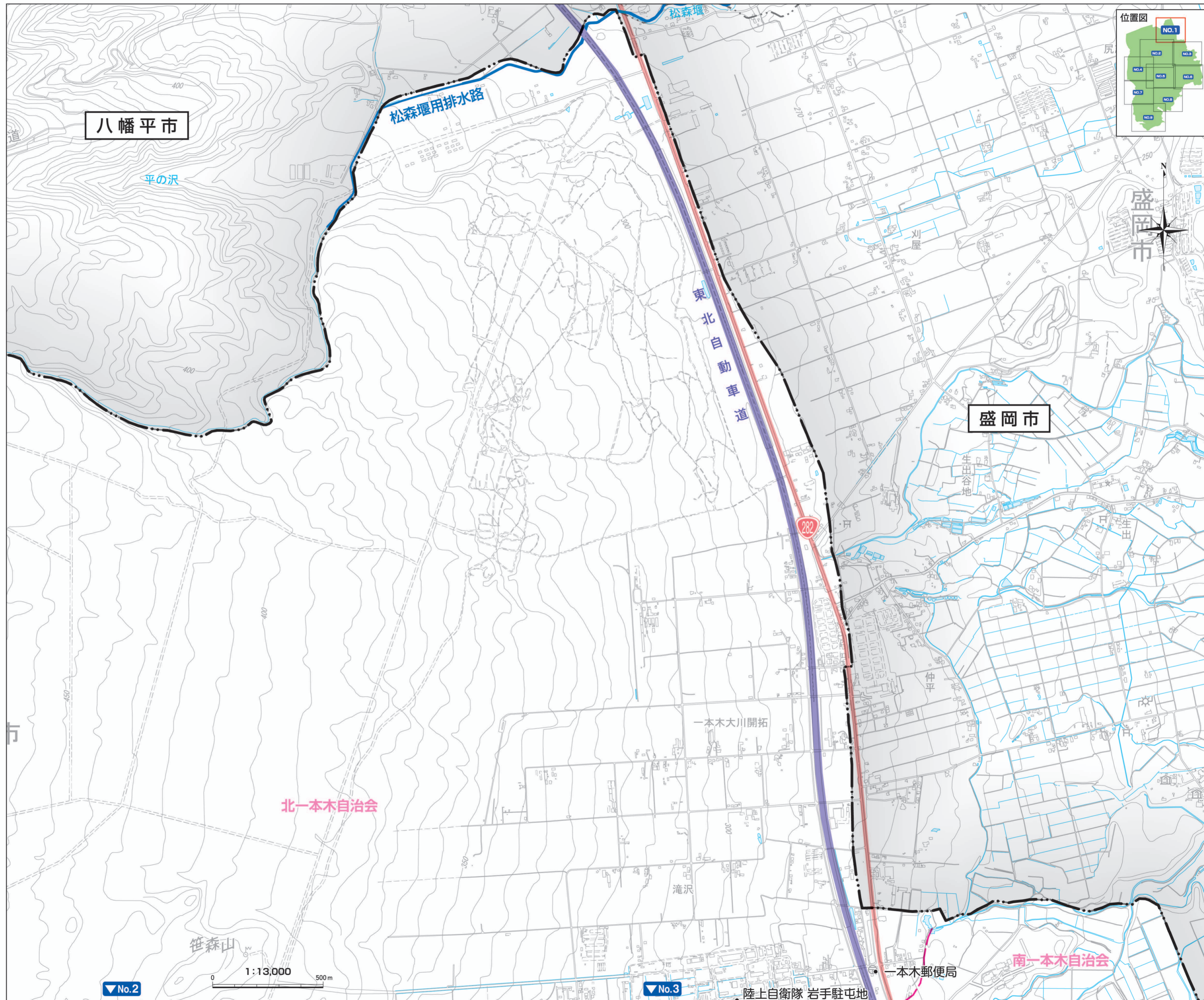
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

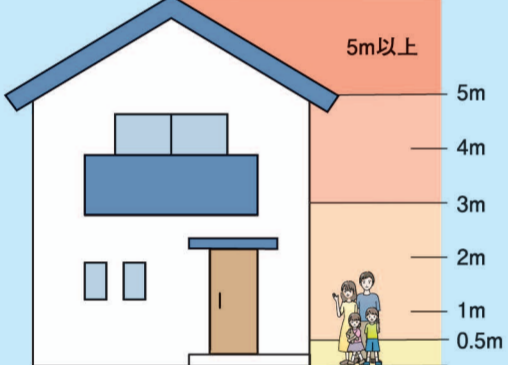
No.2

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別)
	3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



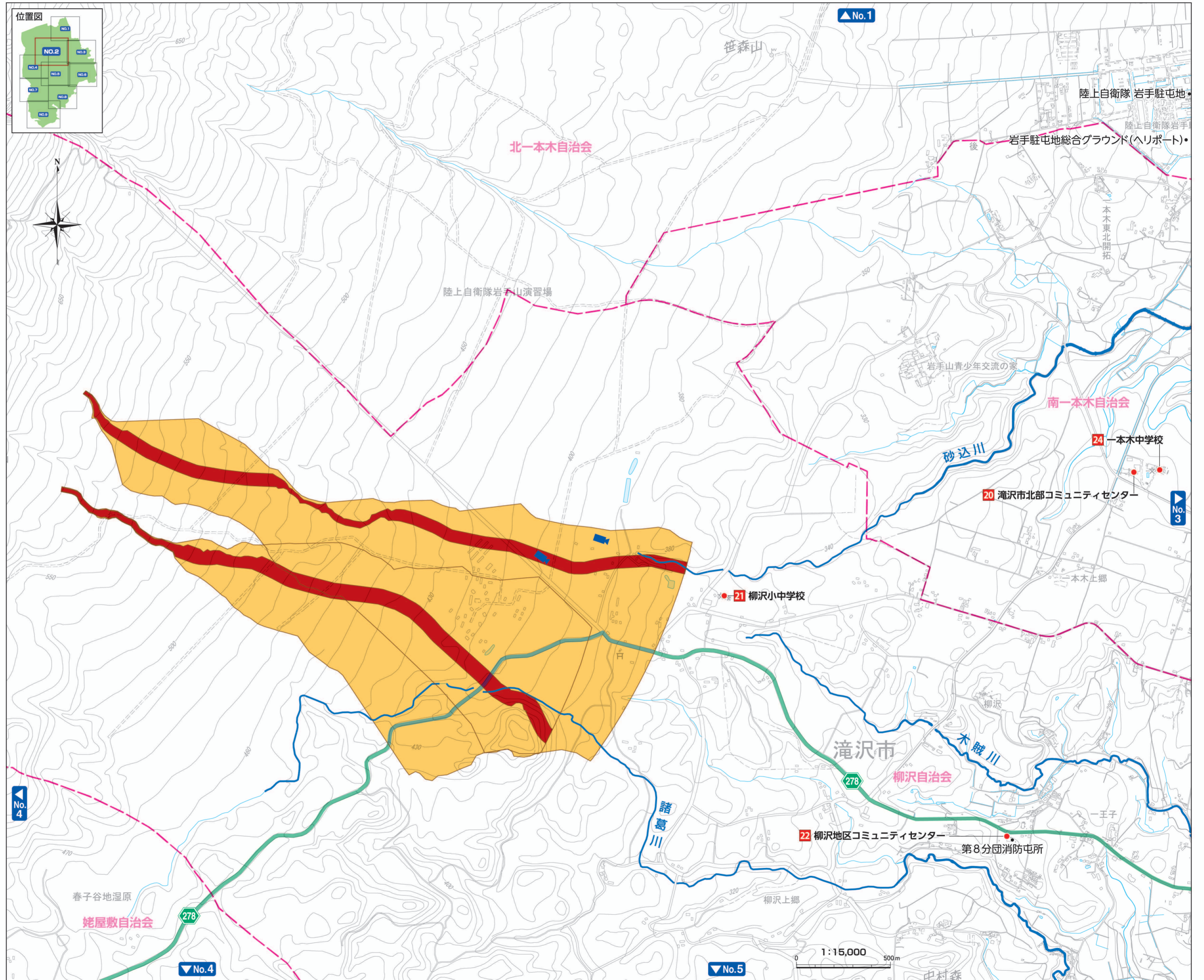
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

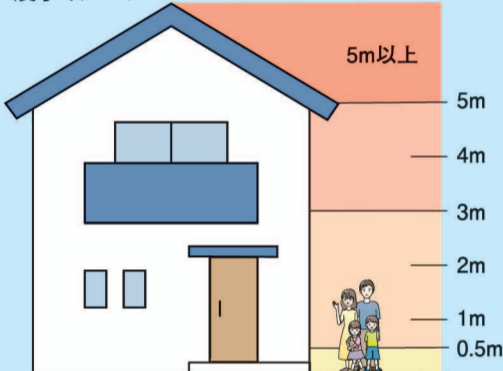
No.3

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



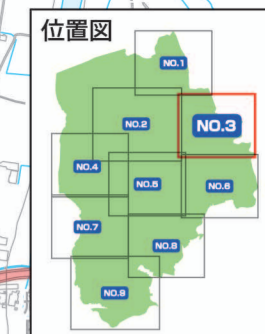
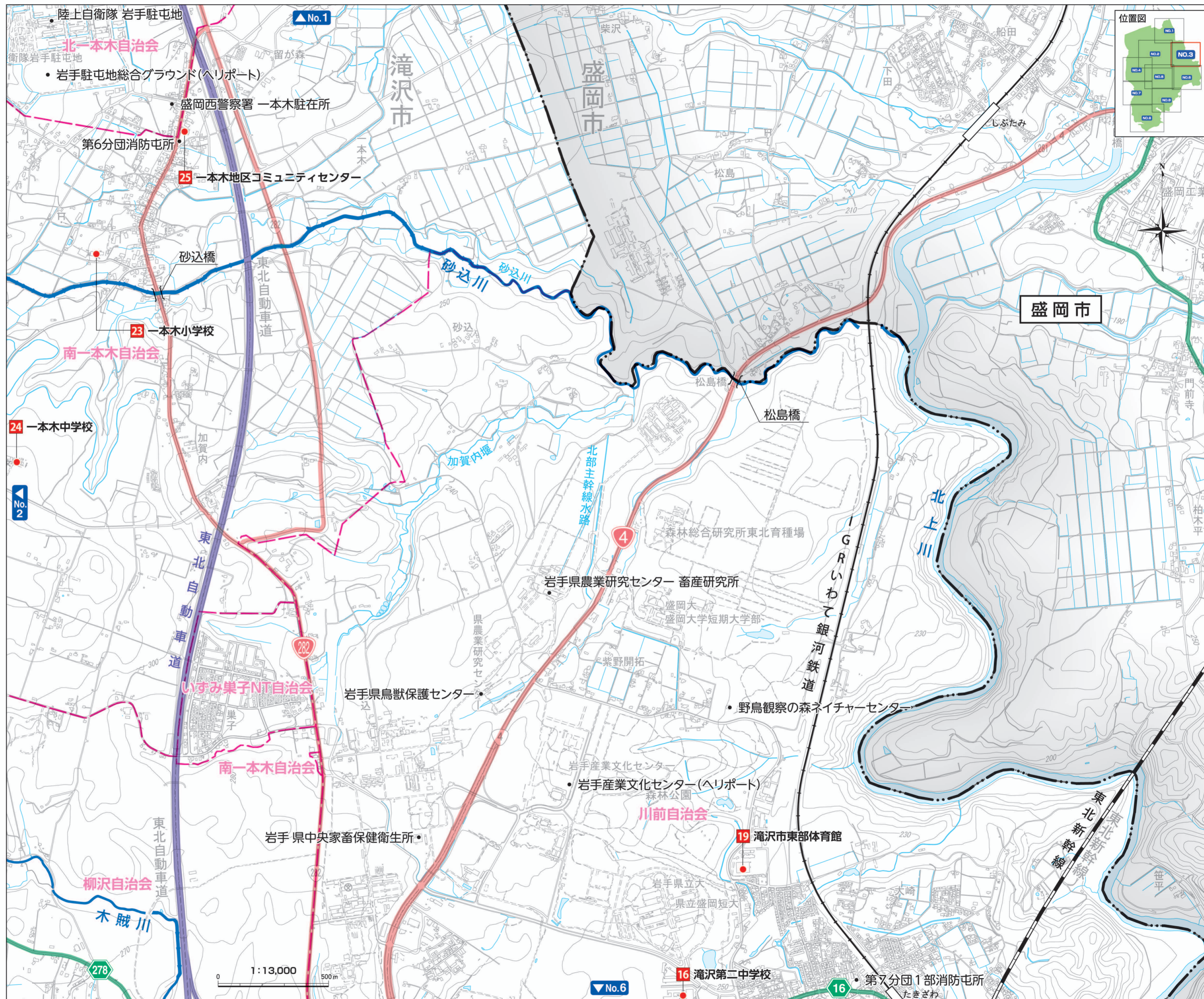
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

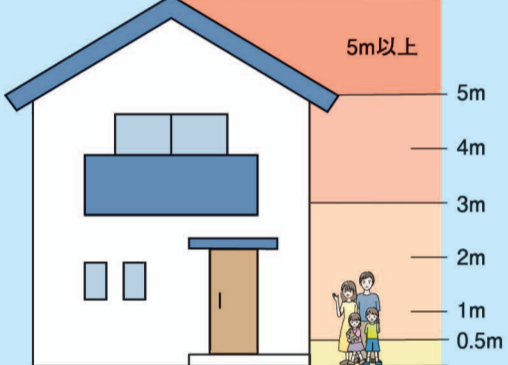
No.4

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



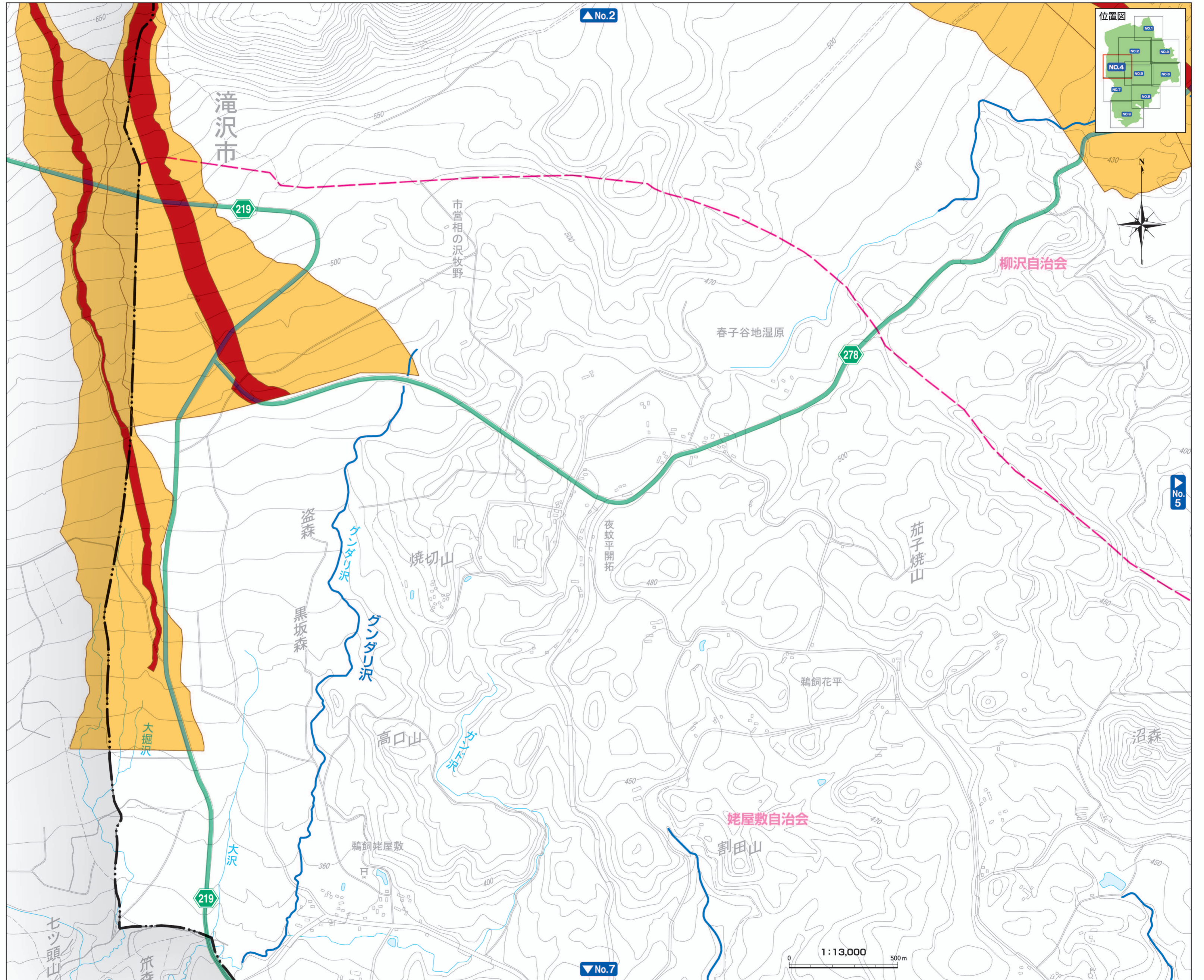
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

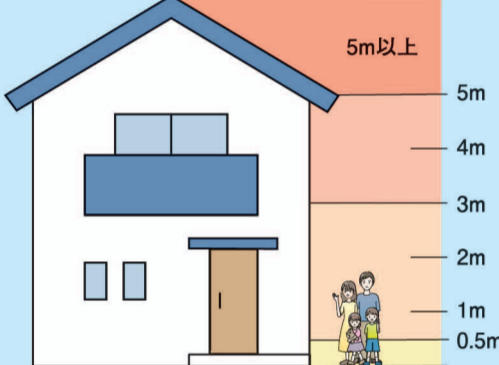
No.5

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



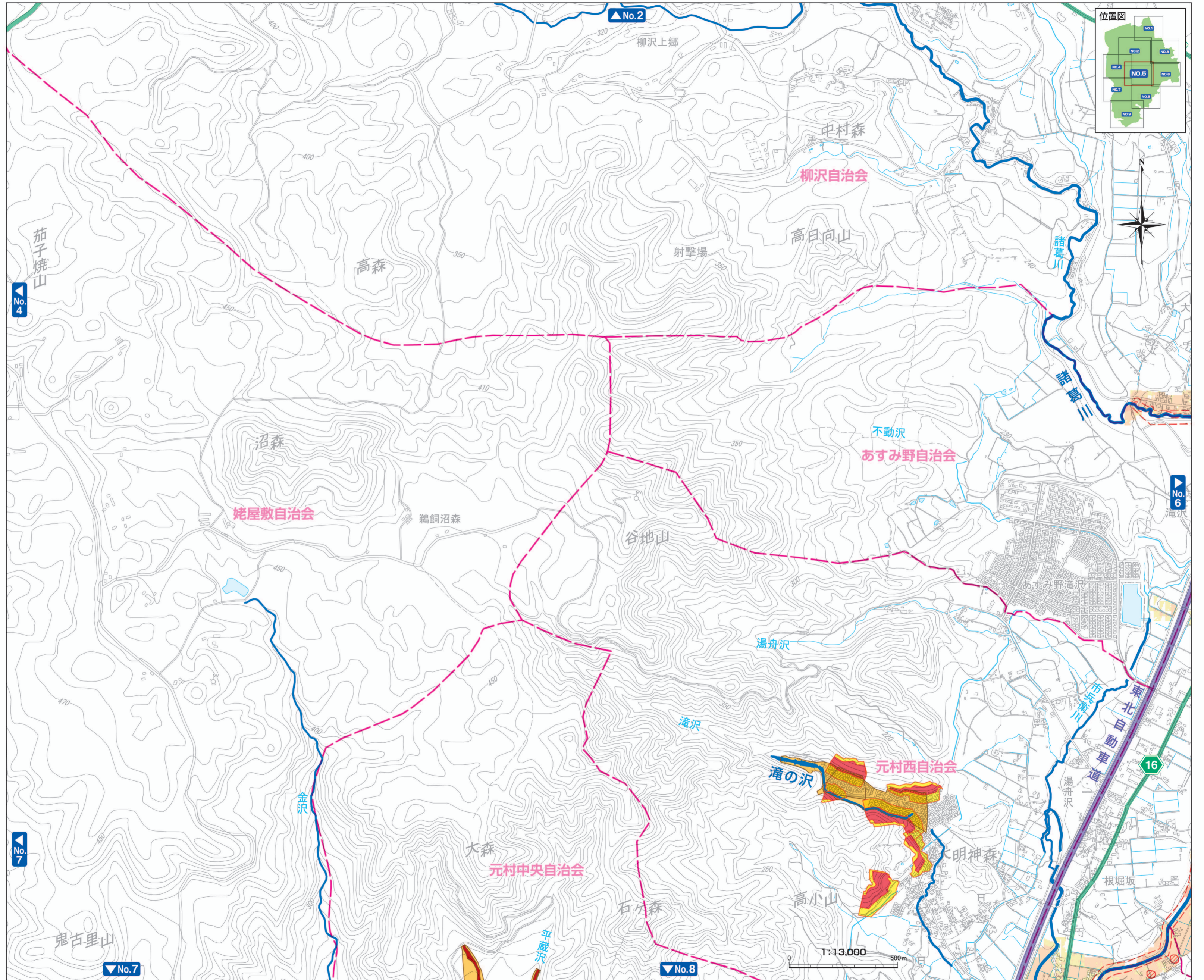
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

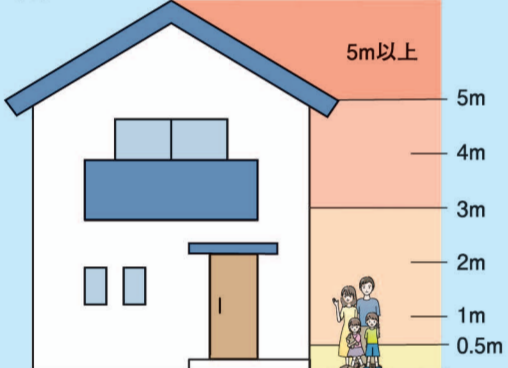
No.6

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



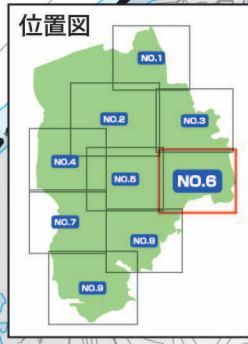
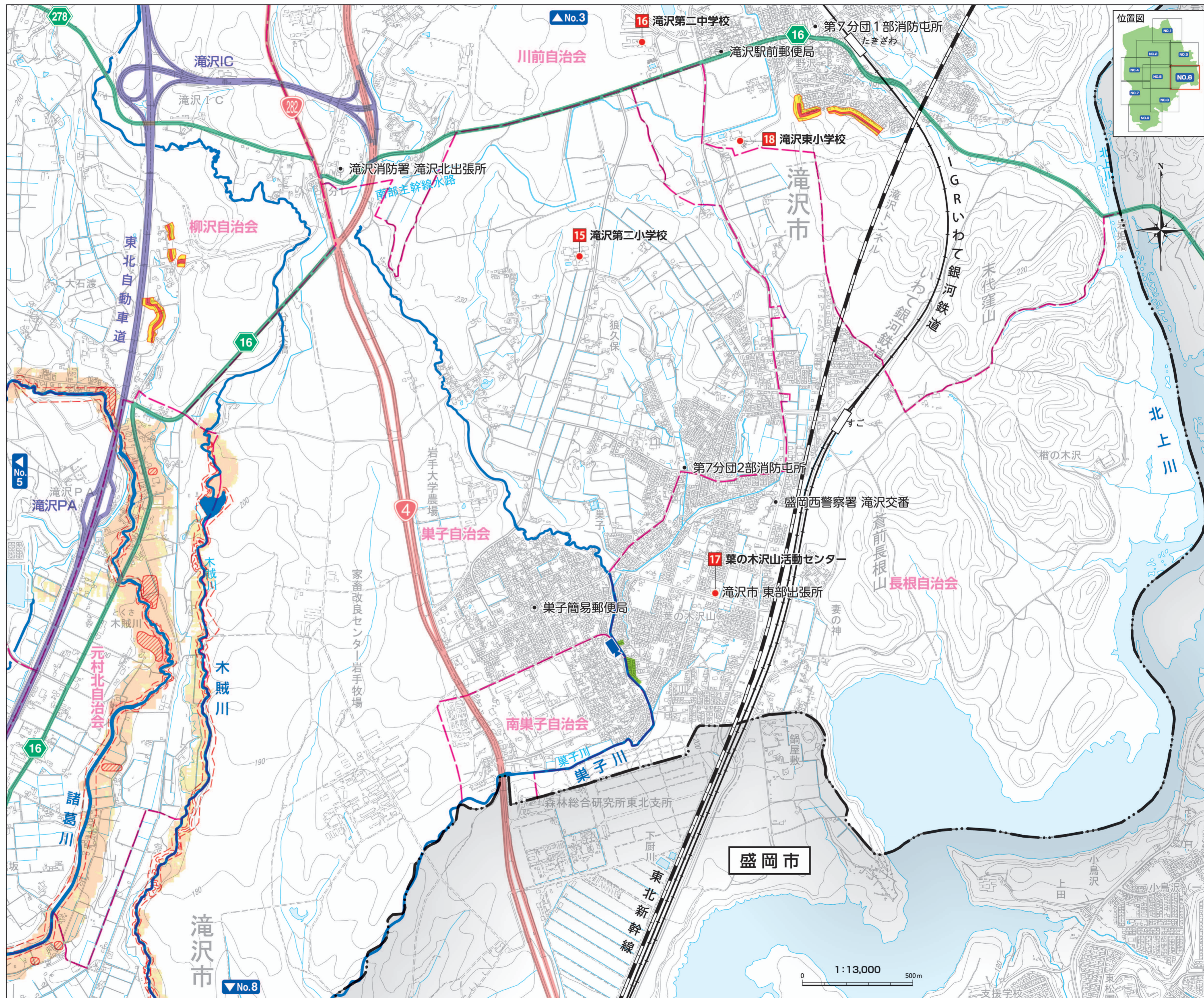
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

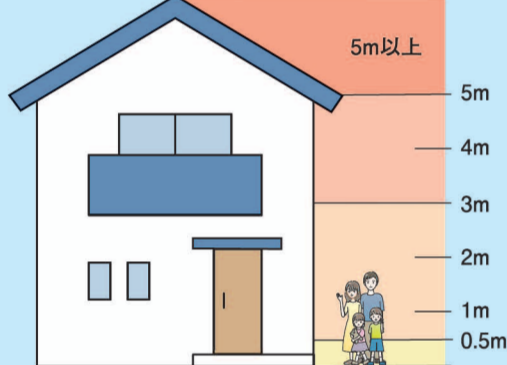
No.7

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



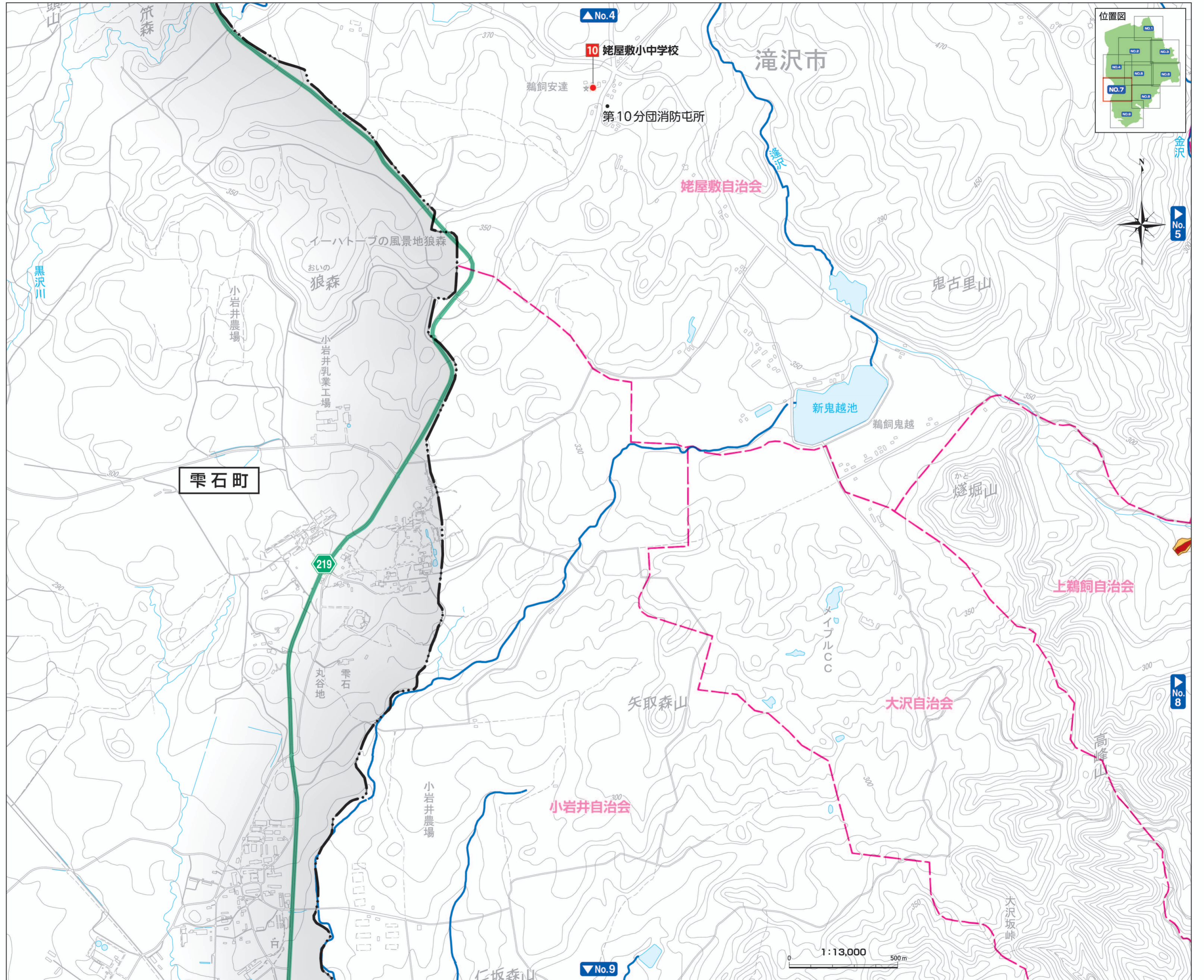
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

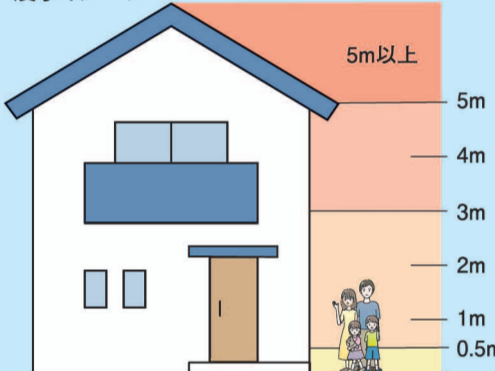
No.8

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



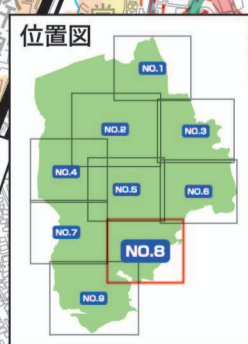
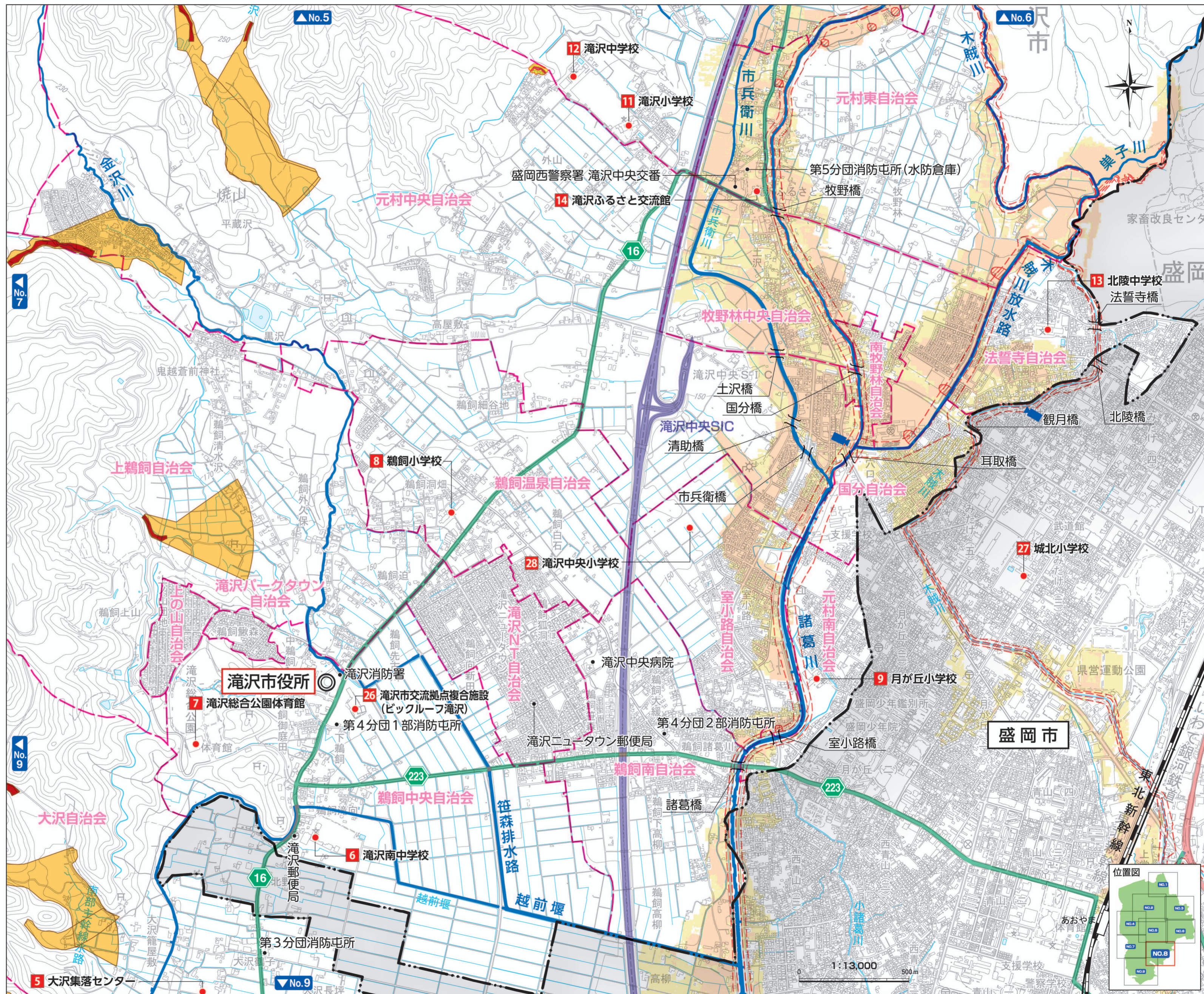
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

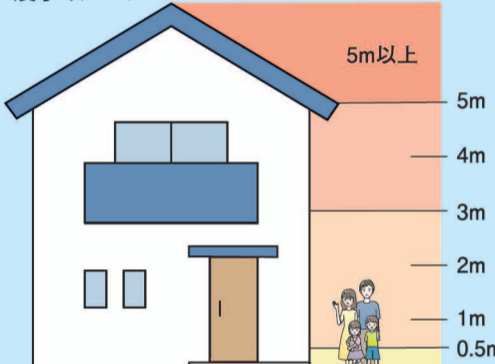
No.9

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別)
	3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



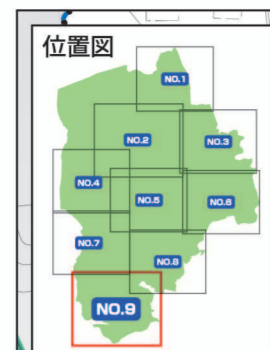
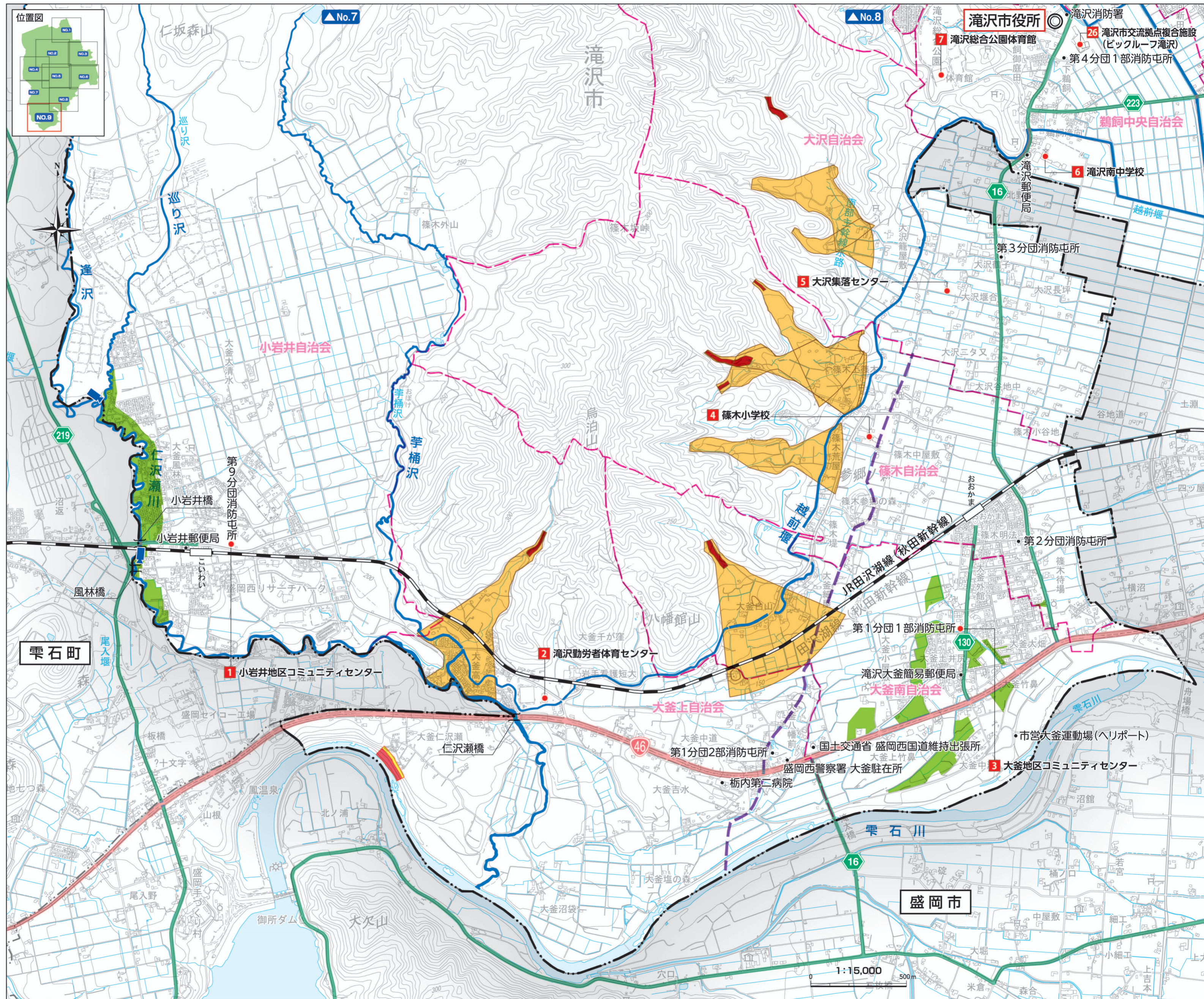
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

市街地拡大地図

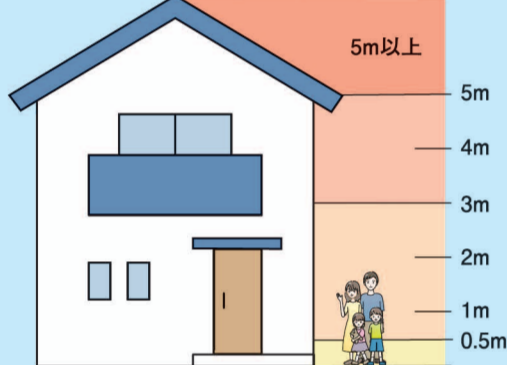
2-1

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ



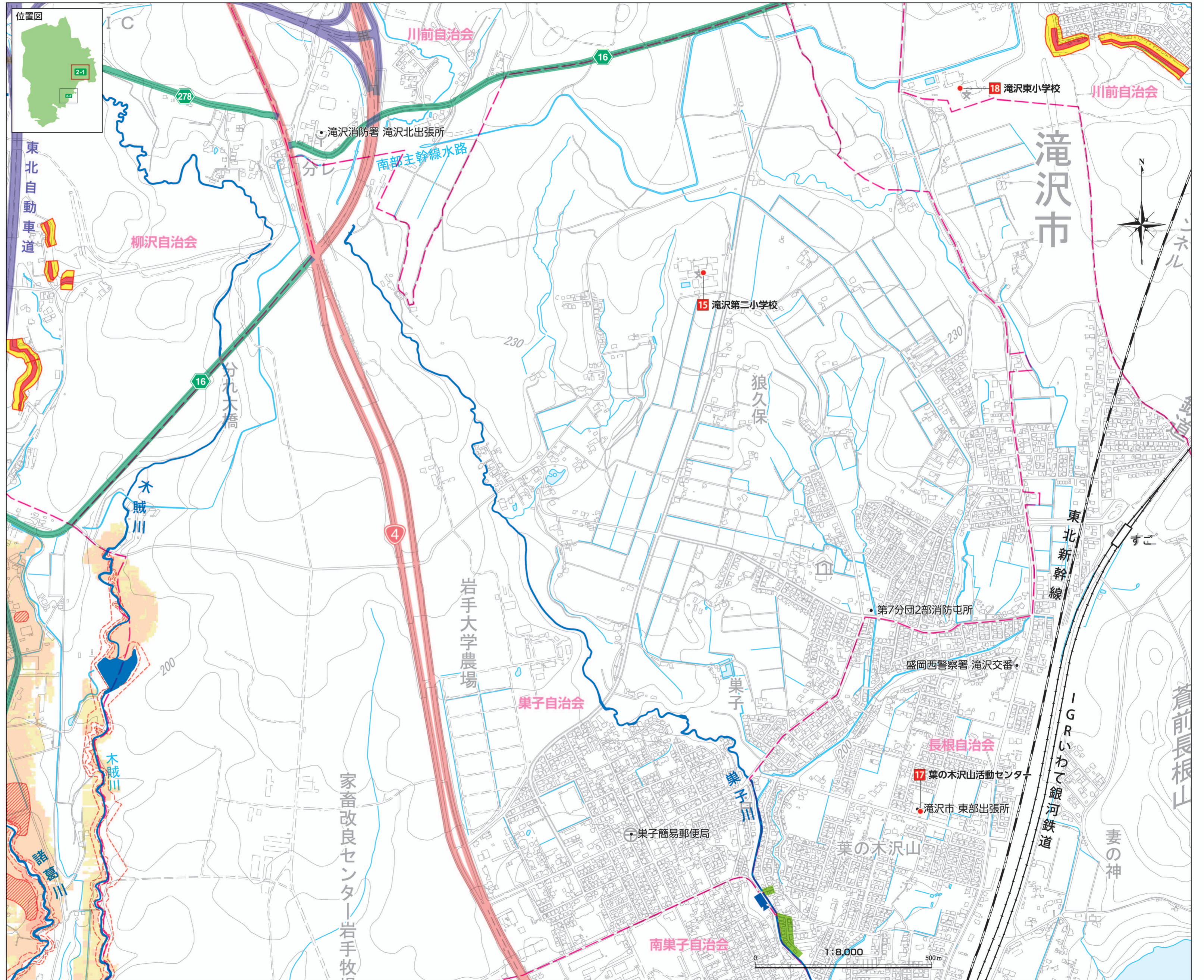
※イラストは、浸水深の概ねのイメージを示したものです。

■土砂災害

凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯



防災マップ

市街地拡大地図

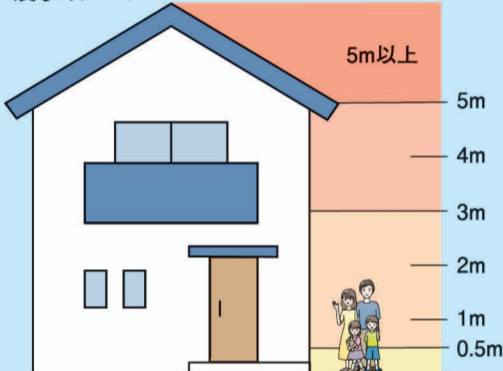
2-2

■洪水災害

想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域

凡 例	
	5.0m～10.0m未満の区域
	浸水した場合に想定される水深(ランク別) 3.0m～5.0m未満の区域
	0.5m～3.0m未満の区域
	0.5m未満の区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
	過去の浸水実績

浸水イメージ

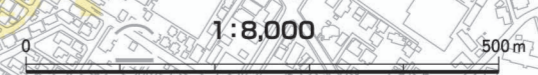
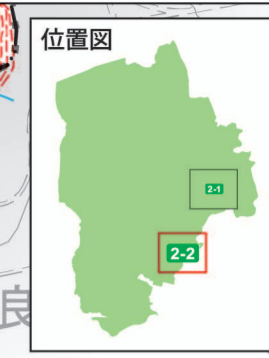
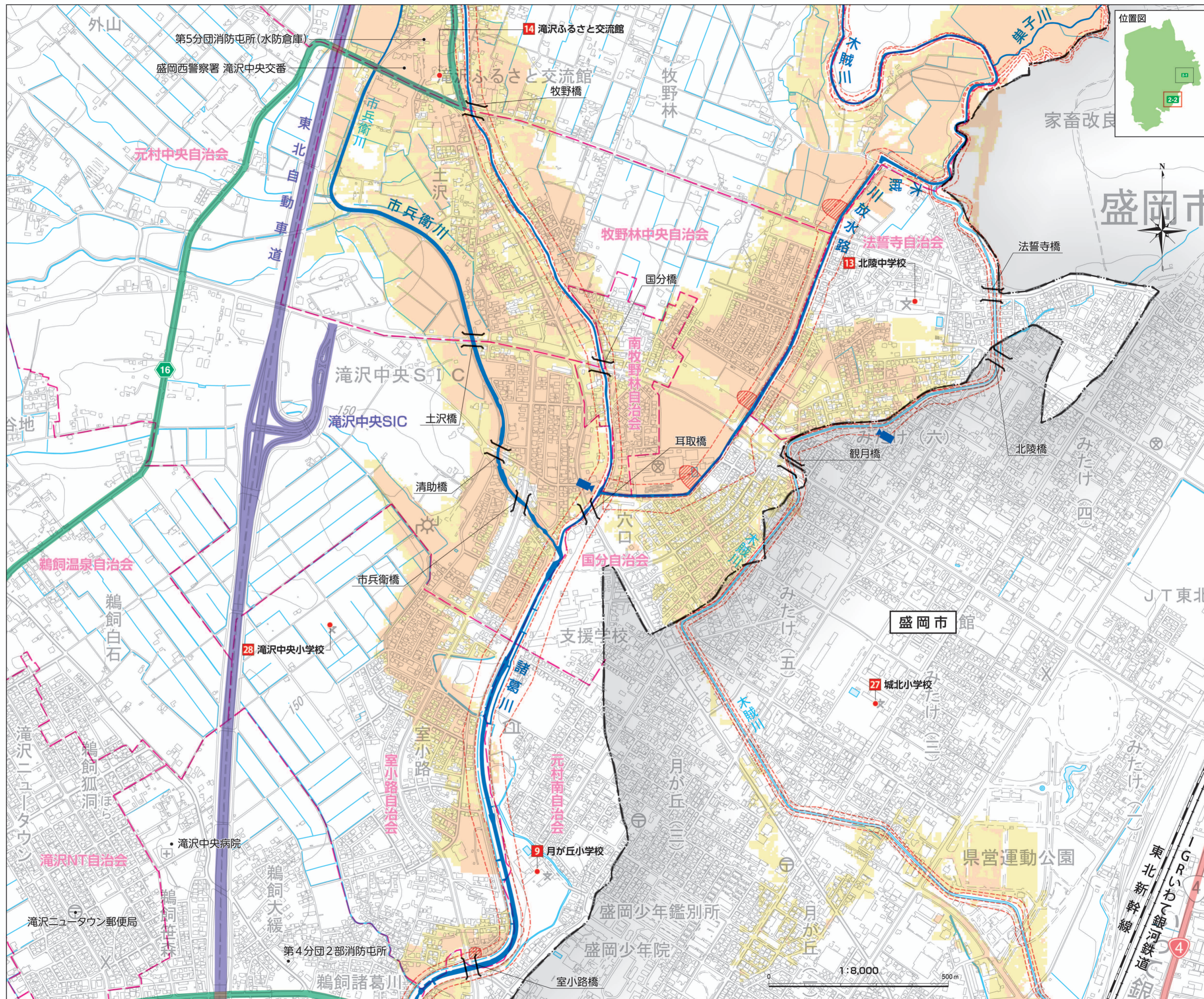


■土砂災害

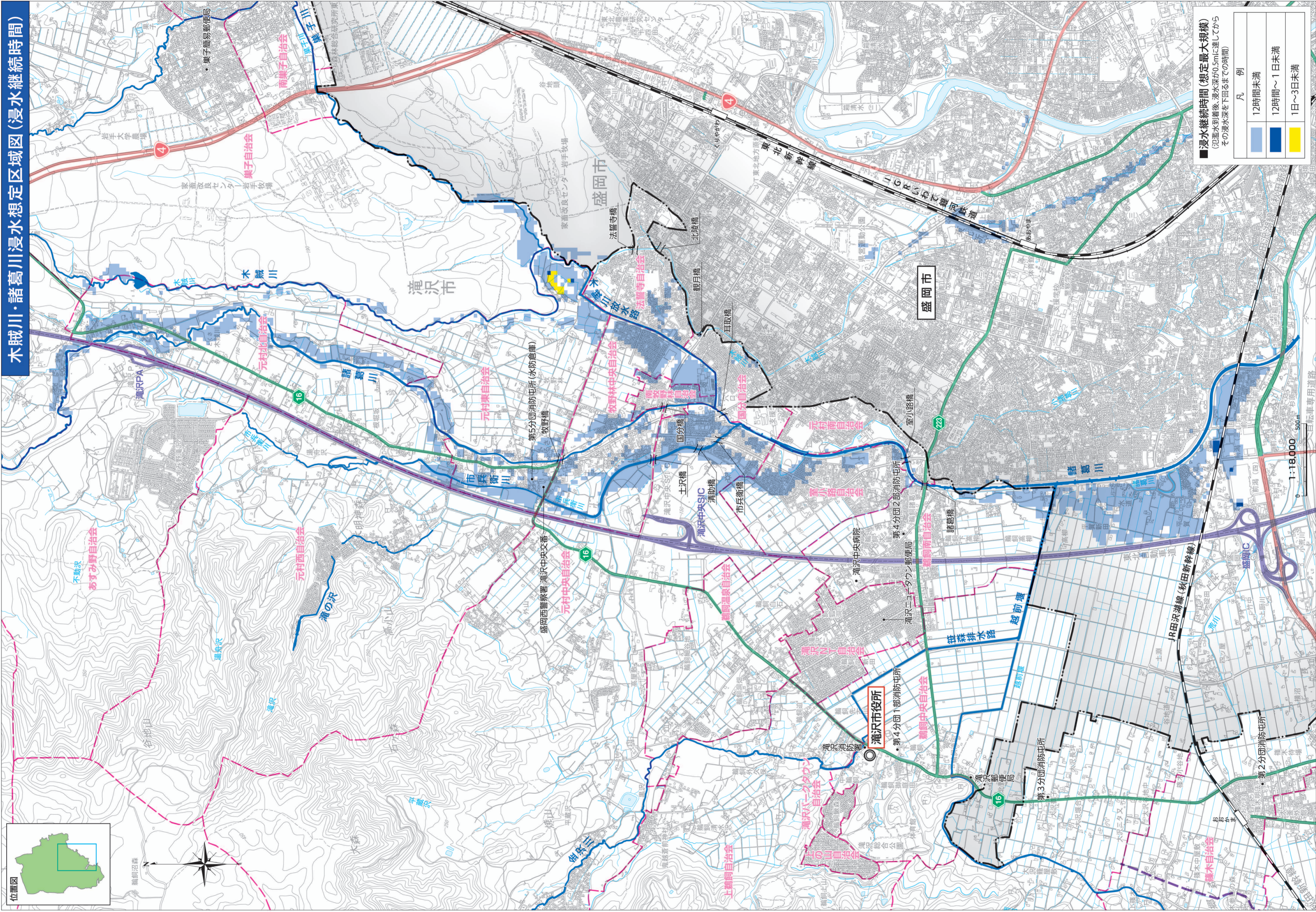
凡 例	
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害特別警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜地)
	土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)

■地図記号

凡 例	
	高速道路
	一般国道
	主要地方道・一般県道
	市道
	鉄道
	河川
	主な橋梁
	河川監視カメラ
	市町村界
	自治会境界線
	活断層帯

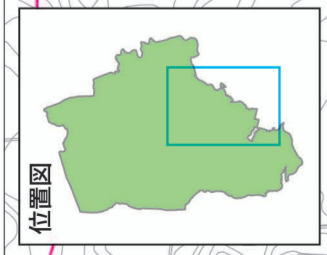


木賊川・諸葛川浸水想定区域図(浸水継続時間)



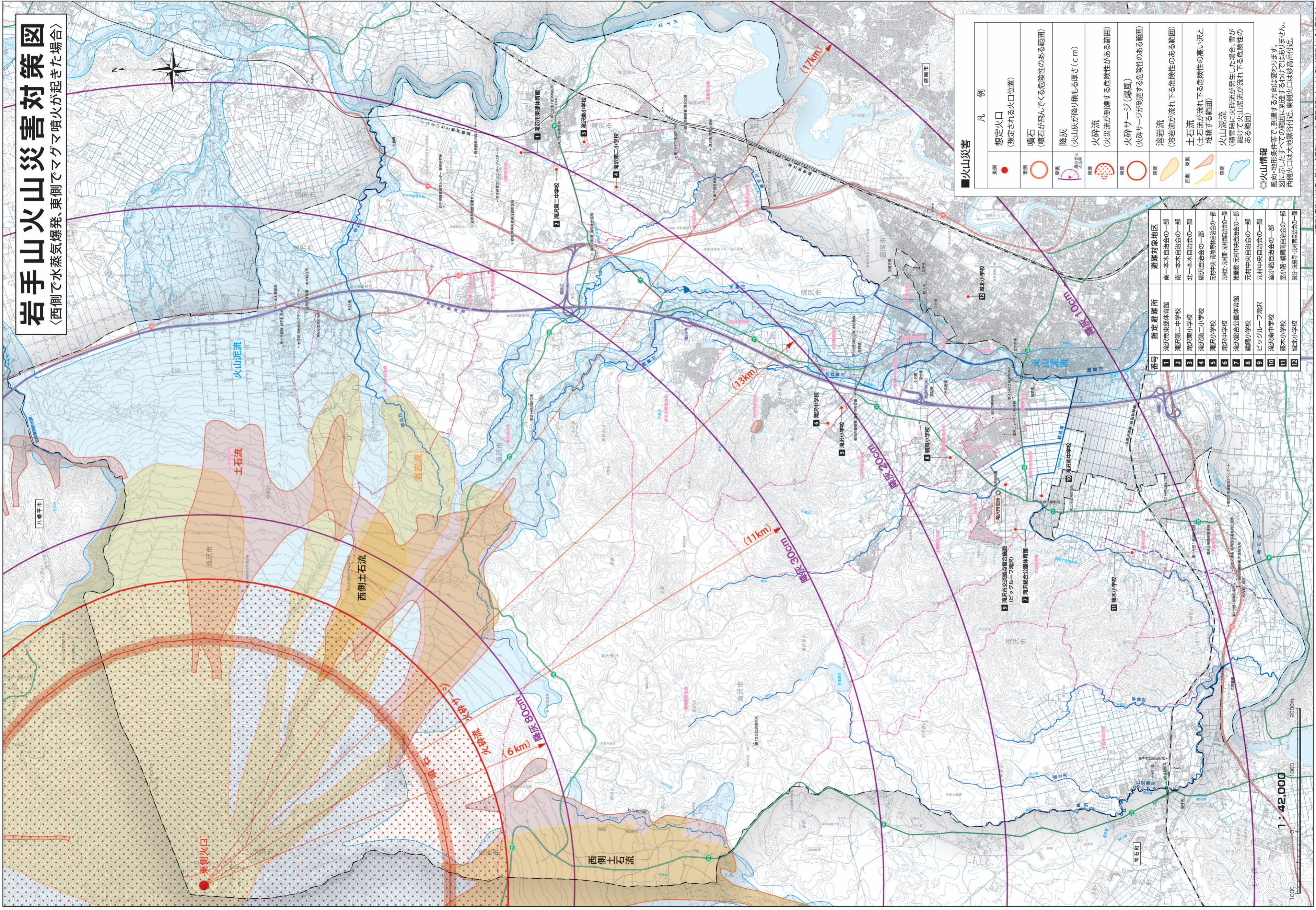
■ 浸水継続時間(想定最大規模)
 (①浸水到着後、浸水深が0.5mに達してから
 その浸水深を下回るまでの時間)

凡 例
12時間未満
12時間～1日未満
1日～3日未満



岩手山火山災害対策図

〈西側で水蒸気爆発、東側でマグマ噴火が起きた場合〉



火山災害

凡例	説明
想定火山口 (想定される火山口位置)	●
噴石 (噴石が飛んでくる危険性のある範囲)	○
降灰 (火山灰が降り積もる厚さ (cm))	○
火砕流 (火砕流が到達する危険性のある範囲)	○
火砕サーージ (爆風)	○
溶岩流 (溶岩流が流れ下る危険性のある範囲)	○
土石流 (土石流が流れ下る危険性の高い区と堆積する範囲)	○
火山泥流 (積雪時に火砕流が発生した場合、雪が融けて火山泥流が流れる危険性のある範囲)	○

●火山情報
 風向・地形条件等で到達する方向は変わります。図に示したすべての範囲に到達するわけではありません。西側火山口は大地割付付延、東側火山口は砂高付延。

番号	指定避難所	避難対象地区
1	滝沢市東部体育館	南一本木自治会の一部
2	滝沢市第二中学校	南一本木自治会の一部
3	滝沢市小学校	北一本木自治会の一部
4	滝沢市第二小学校	柳沢自治会の一部
5	滝沢市小学校	元中央 青野野自治会の一部
6	滝沢市小学校	元北本 元西自治会の一部
7	滝沢総合公園体育館	柳沢 元中央自治会の一部
8	鶴岡小学校	元中央自治会の一部
9	ヒッグルーフ滝沢	元中央自治会の一部
10	滝沢中学校	室小路自治会の一部
11	滝沢小学校	室小路 室南自治会の一部
12	城北小学校	島分 湯野寺 方南自治会の一部

※図面は土石流とは若干山頂上から西側において水蒸気爆発したと仮定して作成されています。